

第一回講義へのコメント

今回は、大学入門講座とはに始まり、授業の目的、大学での学びと高校までの勉強の違いについて、そして知識の体系化の流れで講義が行われた。興味・関心が偏らないことが、大学で学ぶ上で重要であり、知識を蓄積するだけでなく、それらを体系化することで、知識が意味を持つのだということであった。

興味関心は、大学を決めた時点で偏っている。学部によって、学べる分野は限られるから。この総合科学部でも、目的にあった、自分の学びたい分野に即して、学ぶため、偏りが出てしまうのは仕方ない。たとえ興味や関心がない分野も学んでみるべきでしょうか。

今回の授業では、大学での学びとは、学問的に価値のある興味、関心をきっかけとして知識を体系化することだということが重要だと考える。確かに、高等学校でもこれまでの受動的な学習態度から、大学では能動的に学んでいくとよく聞かされる。大学が学問機関であると認識される限り、当然だ。しかしながら、この「学問的に価値のある興味、関心」という言葉が腑に落ちない。総合科学部は文系の学部であり、新しいものをというよりは、既存の知識や知恵から発展させて自らの学びを展開させていく。しかし、理系の分野でもとめられるのは最新の技術や、医療機関では社会のニーズなど様々な需要に従って研究していく。したがって、この「学問的に」という言葉に分野による違いはないのかと疑問に思った。その点について山口先生にお答えいただきたい。

今回の講義はこの授業をする目的、大学での学びの体系について学びました。大学では高校までの義務教育で学ばなければならなかったことと違い、自分の興味関心に即して学ぶことができるが、個人的な興味関心ではなく学問的に価値のあるものでなければなりません。そしてその学びに正解はなくないが、だれが見ても正解だと思えるようなものを見つけなければなりません。学んでいく中で身につける知識は断片的なものではなくその知識同士をつなぎ活用することができる知恵でなければいけません。

今回の講義で僕は今まで自分が学んでいたこと、興味を持っていたのは私的なものであることがわかりました。そしてずっと一つの興味にしか目を向けていませんでした。一つの興味に固執してほかの物事を詰まらなさと切り捨てていました。これからの大学生活の中では、学びのサイクルをしっかりと確立して知識を体系化し、知恵を身につけ、さら

コメント [y1]: もちろん。まず知らなくては興味も関心を持ちようがありません。大学では、あなたがこれまで夢にも思わなかったような様々な研究分野があることを知り、自分の狭い世界を可能な限り広くしていきましょう。

コメント [y2]: それぞれの学問分野における問いの具体的な内容はもちろん異なります。今回の授業のポイントは、どんな学問分野であれ、個人的な興味関心でなく、その学問の体系が求める問いに答えることが大切だという点です。

なる興味に発展させていくような学びをしたいと**思います**。

また、自分で解を見つけなければならないので個人的な興味関心に終始せず、説得力のある解を見つけだすことができるように自ら学び、考え、理解することに」努めていこうと**思います**。

大学での学びにおいて、論理的思考力や物事を多面的に理解する力といった正しく考える力は非常に重要だ。「正しく考える」とは、「思い」や「感想」などの不確実な要素ではなく、文献やデータなどの客観的な根拠や理由を示して主張することであり、自分で調べ、知り、書き、書き直すことの積み重ねによって力が身につく。

大学では自分の興味関心に応じて学ぶことができ、また、これまで以上に決まった正解のない問題に向き合うことが増えるため、考えが個人的な興味関心に終始したり、解答をでっちあげたりし、「正しく考える」ことを忘れがちである。

そこで興味を興味で終わらせないために必要となってくるのが、興味をきっかけとした学びだ。興味をきっかけとした学びとは、自分が興味を持ったものを調査し、そこで分かったことを知識として身につけることで最初とは違ったところに興味を持ち、それをまた調査し、知識を身につける、と繰り返していくうちに知識が体系化し、知恵となるということだ。知識が体系化すると興味関心や問いの価値がわかるようになり、学問的な価値も上がっていく。そしてこれらは学びだけに限らず、自分自身の変化や成長にもつながり、さらには「知恵のある者」に近づくこともできる。

「『正解はない』場合でも、『誤答』はある」という言葉には私も同意見だ。というのも、私が中学や高校で決まった答えのない問題について考えたとき、「正解がないのなら人が考えることすべては正解で、正解は人の数だけある」と思っていた。しかし今回この講義を受けて、そういった考えは無責任で、問題を放棄して逃げ出しているのと同じことであり、説得力の有無を基準にすると、間違いなく誤答であると**思った**。このようなことから、客観的な根拠や理由を示して主張することは、その主張に責任を持つことであり、主張に責任を持つてはじめて「正しく考えた」と言うことができると**思う**。

コメント [y3]: なぜそう思ったのか、理由を書くようにしましょう。

今回の講座では、総合科学的思考を学んだ。正しく考えるとは、個人の感情ではなく、客観的な根拠を示して主張することだ。大学の学びにおいては、個人的な興味をそのままにせず、調査を通して知識を得て、興味を変化させていくことで、知識を知恵へと昇華することが重要となる。知恵は、社会で生きていくなかで理性的な判断を下すために必要である。

私は多面的理解について掘めていないので、質問させていただきたいと思う。知識を体

系化すれば、多面的な理解が得られるということなのだろうか。私は、変化していく興味に従って、広い分野の物事を学び知識を体系化することで、多面的理解が得られると**考える**。

総合**化学科学**入門講座では、論理的思考の養成や物事の多面的理解、つまり、正しく考える力を**要する養成する**。「正しく考える」とは、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返し、根拠や理由を示して主張することである。正解のない問題に、自分で解答を与えなければならないが、個人的な興味や関心に終始してはならない。どんな興味関心なら良いのかというと、学問的に価値のある興味関心。また、大学では高校と異なり、興味をきっかけにしたうえで学ぶことが大事である。物事に興味を持ち、自ら調べ、そして知識がつき、さらに調査することで、知識が体系化し、「知恵」が生まれる。そこではじめて、自分自身の変化につながる。「知恵ある者」とは、自分自身の中に体系化された知識がどのくらいあるかによって決定する。大学では、自分の「知識の体系」を可能な限り大きく育て、「知恵ある者」になることを**必要としている求められている**。高校までの学びは、調査し、報告すれば良いというかんじであったが、それでは興味を持ち所も変わらないし、自身の変化にもつながらないことがわかった。「知恵ある者」になるためには、様々な角度から物事を捉え、知識を体系化させていくべきだ。

総合科学入門講座では論理的思考力や多面的理解を身につけることが目的であり、学問的に価値のある興味関心を持つことが重要で、高校で学んだことと実際に大学ですることには違いがあることがわかった。私は論理的思考力や多面的理解は重要であると考えている。なぜならこれから先必要とされるものであると考えられるからだ。例えばコンピュータ機器の発展によるものだ。単純な作業や知識といったものはすべてコンピュータに負けてしまうだろう。しかし、論理的思考力や多面的理解といった考える力は人間でないとできないものであるためこれからも十分必要な力であると思われる。したがって、正しく考える力を身につけ、意味のある興味関心を知識、知恵へと変換させていくことができるよう自分自身が時間をかけて考え努力していくことが重要だと**考える**。

今回の講義では興味をきっかけにして知識を広げ、知識を体系化することで知恵となり自分自身を形成することを学びました。

コメント [y4]: なぜそう考えるのか、理由を書くようにしましょう。多面的な理解とは、一つの物事について、哲学的・歴史的・社会的など、多面的な研究の視点からの知識を身につけていくことで得られます。

しかし今回の講義で疑問に感じたことがあります。それは、自分のもつ知識が体系化することで、興味関心や問いの「価値」がわかるようになる」と山口教授がおっしゃった時です。自分はその逆ではないのかと**思いました**。興味のある事柄が持っている「価値」をあらかじめ知っているからこそ関心をもって知識を体系化できると**思います**。「この学問が気になる」と興味を示すのは自分にとってそこに価値をみいだせたからだ**と思います**。つまり僕は興味がある=価値を知っているだと認識しています。この考え方について教授の意見をお聞かせください。

コメント [y5]: どのようにして物事の価値をあらかじめ知ることができるのか、説明してください。

コメント [y6]: なぜそう思うのか、理由を書くようにしましょう。

論理的思考と多面的理解、すなわち総合科学的思考を身に着けることで、正しく考える力がつく。この力を養うためには、まず物事を客観的に見る必要がある。自分が持つ固定概念にとらわれ主観的な考え方をしていると、自分の意見を伝える際、説得力のある主張をすることはできない。また、自分の感想、信念を取り出すのではなく、実際にある文献やデータを用いて主張することで、自分の意見に深みを持たせることができる。

大学では興味関心にそって学ぶことになるが、その際、個人的なものではなく学問的に価値のある興味関心であることが重要である。高校では単に自分の好きなものや気になるという理由でそれを調べ、発表するという段階で**終止終始**していたが、これからは、学習することによって有益になるものを調査し、知識として身に着ける。そうすることでさらに興味の持ち所の変化があらわれ、それを調査することで知識を体系化させることが可能になる。つまり知恵が身に着くことになる。

このように大学での学びを広げるために、視野を広くすることが大切だと考える。これまでは、受動的な活動が多かったが、これからは能動的な取り組み、そして高校では経験できなかった**海外留学**や他校との交流をすることで自分の考え方も変わってくるだろう。また、これまで自分の思ったことや感想を述べるということが多かったため、総合科学的思考を身に着けるためには、より意識的に日頃から様々な視点、立場から物事を見つめる必要がある。

コメント [y7]: ぜひ行ってください。留学プログラムについては5月11日に説明予定です。

今回の授業を受けて正しく考える力の大切さを知りました。正しく考える力とは論理的思考力・多面的理解のことで、これらは客観的な根拠や理由を軸とすることで成立し、調べ、知り、書き、書き直すことを反復することで身につきます。さらに意味のある興味関心を持ち、知識を体系化することが知恵ある者により近づくために必要であるとわかりました。意味のある興味関心とは個人的な興味関心に終始するのではなく、学問的価値のあるもののことです。また知識を体系化することは興味関心や問いの意味を理解することに

つながります。知識の体系の大きさは知恵の大きさにも関わってくるのでかなり重要であるといえます。

私は今回の授業を通して正しく考える力を身につけることや知恵ある者になることは、これから社会に出ていく私たちにとって必要なことだと **思いました**。しかし、今回の授業では **知恵ある者こそが素晴らしく、絶対的であり、そうでない人は知恵ある者より低い存在である** という風に捉えてしまう危険性があるように見受けられました。そういった捉え方は学歴差別につながりますし、先生方の側からみても不本意なものではないでしょうか。今私たちに必要なことをわかりやすく学ぶことのできる授業だからこそ誤解する余地の少ないものになるとありがたいです。

今回の講義では大学での学びのための心構えについて教わった。その中で「学問的価値のある興味関心」という言葉があった。ただの興味関心では大学の学びとしては意味を持たないと教授はおっしゃっていた。しかしながら私はそうは思わない。学問的価値というものは現代人の性 **(←?)** では測れないと私は考える。大学で学んだことが社会に出て 10 年、20 年という長い年月を経て突発的に大きな価値を持つことがあるからだ。例を挙げると、2004 年に狂犬病に感染したアメリカの少女を救った「ミルウォーキープロトコル」という処置法はそれまで学術的に注目されていなかった薬を混合したものであった。こういった例から学んだ時代には価値が少ないトピックでもその後価値が出てくることもあると考える。それを踏まえてもう一度「学問的価値」とは?について、これからの大学内の学びを通じて定義していきたいと思う。

この授業の目的は、客観的な根拠や理由を示して主張することや、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しをすることで論理的思考力と多面的理解を身につけることだと述べている。また、高校の試験などでは必ずと言っていいほど正解が存在していたが、大学では正解のないものも多く、学問的に価値のある興味関心に対して調査し、知識をつけ学んでいくべきだそう。その知識によって変化した興味をさらに調査をすることによって知識が体系化され、知恵になるそう。徳島大学は自分の「知識の体系」をできるだけ大きく育て、できるだけ「知恵ある者」になってほしいらしい。

私は知識と知恵の違いがまだよくわかっていない。知識の体系化が知恵になるときに何がどう変わるのだろうか。スーパー大辞林によると、知識は 1 の意味に「ある物事について知っていることがら」とあるのに対し、知恵は 2 の意味に「事の道理や筋道をわきまえ、正しく判断する心のはたらき。事に当たって適切に判断し、処置する能力」とある。これ

コメント [y8]: すべての人は、能力等に関わらず基本的人権を有し、人間として尊重されるべきです。しかしそのことと、すべての人の能力が等しいということは別のことです。知恵ある者は、知恵があるという点において知恵がない者よりも優れています。能力に従って、給料等の待遇が違うことも、当然ではないですか？
だからといって、「能力の低い者は人間としての価値がない」ということにはならず、たとえば働く能力がない人であっても、生活保護などの制度によって、生きていく権利を保障されます。

コメント [y9]: 実際に身につけてみないと分からないことがあります。

より、自分なりにではあるが、ただただ知っているだけの「知識」というものに、自分でその知識に対して十分に理解し、自由に操れるようになると「知恵」に変わるのではないのかと考える。

「正しく考える力」とは、自身の興味に基づいた事柄をデータや文献などの客観的な根拠や理由をもとに調査し、その調査によって変化した興味の対象をさらに同様の方法で調査し、それを繰り返すことで知識を体系化し、知恵へと昇華させる力のことである、というのが今回の授業の要点であった。

しかし、断片的な知識を繋ぐことで体系的な知識になるということであったが、それは結局は自身の記憶量の問題であり、断片的な知識と体系的な知識に境界はない。つまり一つの事柄に対してそれぞれがどれだけの知識を有しているかという調査はできても、その知識を体系的か断片的か評価することはできない。なぜならある事柄について1つしか情報を持たない者からすれば、2つの情報を持つ者の知識は体系的であり、一方で3つ以上の情報を持つ者からすればそれは断片的だからである。

コメント [y10]: なぜ、「記憶量の問題」になるのですか？「相互に関連付けられない知識」が断片的な知識であり、「他の知識と関連付けられた知識」が体系化された知識です。断片か体系かは、量の問題ではなく、質的な相違です。

今回の授業の要点は、物事は客観的な根拠や理由を持って考えるべきであり、大学では調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことで、つながる知識を持つ「知恵のある者」を目指していくということだ。

客観的で論理的に考えることは必要であるが、人間である以上、一切自分の感情を入れないで物事を考えることは難しい。しかし、客観的に考えることは、物事を多方面から見ることにつながる。客観的に物事を考えることが出来る人が集まれば、その分多くの視点や意見、情報を共有することが出来る。様々な地域から様々な人が集まって共に過ごす大学は、自分と違う視点や意見を得るための絶好の機会がたくさん転がっていると言える。同じ4年間という時間を過ごすなら、大学という場を上手く活用し、自分とは違う視点を得る積極的な姿勢を持つべきだ。みんながその努力をすることで、お互いをより有意義に高め合うことが出来る。

授業では正しく考える方法や、興味を知識へ知恵へと広げ、知識の体系を作り上げて知恵のある者になることなどを学んだ。

授業の中で「どれくらい大きな知識の体系を作ることができるかによって、どの

くらい知恵のある者が決まってくる。」と聞いた。答えのない問いに誤った解答をしないために、まずは知識をつけなければならない。知識はインターネットで調べればいくらでも出てくるが、私は知識をつける方法は重要だと思った。なぜなら、単に見聞きしただけの知識は簡単に体系の中から外れてしまうからだ。見聞きしたものを自分の知識にするために、見聞きしただけのものを実際を使ってみる必要があると思う。数学の公式も習ったままにするのではなく、実際に問題を解いて使うことで理解したことになる。また、使ってみて自分の知識になることで見えてくるものも出てくる。そうすることでより濃くて大きな知識の体系を作ることができて、知恵へとつながっていくはずだ。

授業を聞いて私は、知識のつけ方にも注意していくべきだと考えた。

コメント [y11]: インターネットの活用法については4月27日の授業で取り上げる予定です。

コメント [y12]: 「濃い」知識体系とは、具体的にどのような知識体系でしょうか。

今回の授業では、まず、自分の興味関心に即して学び、正解のない問題にも自分で解答を与えることが大学での研究であると学んだ。また、自分の中に大きな知識の体系を作ることができる人ほど知恵ある者となるということが分かった。その中で特に関心を持ったことは、大学での学問研究は高校までの調べ学習とは違うという点である。なぜならば、私は高校までの調べ学習で、自分の興味関心のある物事について調査し、報告することで自分の知識が増えたと感じていた。しかし、それだけでは最初の「興味」が変わっていかず、断片的な知識を得た「雑学」であったのだと知った。興味のある物事について調査し、新たな知識を得ることで、また違った観点から物事について考えることができ、興味の持ち所が変わる。そのように関連付けて知識を体系化することで自分の「知恵」となる。今までの私にはこのような考え方がなく、新たな知識を得ることに終始し、満足していたのだと気づいた。大学での学びでは高校までの調べ学習のように興味のある物事を調査するだけに留まらず、自分の知識の体系を膨らませ、知恵ある者になれるよう意識して学問研究に取り組みたいと考える。

今回の授業を受けて、だれもが納得できる根拠や理由付けをすることで初めて知識として公認され、巨大な知識が世の中を動かしているということが重要だと感じた。そこから私は、価値観には各々に異なりがあるべきだと考えるがそれぞれの価値基準は同じであるほうが良いと考える。そのように考える理由として、まず初めに価値基準が統一されることで世の中の安定が保たれるということがあげられる。

例えば、基準が統一されることで人々の善悪の基準もおおのずと設定されるからである。また、貨幣に対する認識が統一されていることにより日本がなりたっているといっても過言ではないということである。日本は海外に比べお金の問題が少ない。キューバのように

コメント [y13]: 「価値観」と「価値基準」がどう違うのか、もう少し説明してください。

一つの国に二つの通貨が存在することで使い分けるといふことが必要となり認識にも差が出てしまう。そのため観光客などが混同したりして支払いすぎたり、ぼったくりにあってしまうなどの問題も多々生じてしまっている。

以上のことから、価値基準を統一することが大切であるとする。

今回の授業で、個人的感情で述べるのではなく、誰にでも通用する根拠や理由を調べつくし、考え抜く力が、論理的思考力であると学んだ。つまり、正しく考える力とは、根拠と理由を示すことだと学んだ。何度も調査を繰り返すことで知識が定着し、知恵になる。知恵とは物事を理解し判断する力だと分かった。

個人的感情同士のぶつかり合いだと、権力のあるものが勝ってしまう上に、一面的理解になる。これは現代の世の中によく見られる形だと感じた。例えば、政治とは国全体のことを考えるべきであるのに、感情的になって言い争っているところをテレビなどで見ることがある。また、各国々が個々に正義を主張するため、戦争が起こる。互いにもっと道理にかなった主張をするべきだと感じた。誰もが納得する主張をし、社会を作るべきだ。私は社会の一員として、論理的思考力を持った人間になれるよう、授業に取り組もうと思う。

○授業の要点

正しく考える力=論理的思考力・多面的理解(総合科学的思考)

正しく考えるとは

- ・ 客観的な根拠や理由を主張する。(文献やデータ)
- ・ 調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返し。
- ・ 個人的な興味関心に終始してはいけない。
- ・ 勝手に解答をでっち上げてはいけない。

※客観的な視点で誰しもが正解と思うもの。

興味→調査→知識がつくと興味の持ちどころが変わり→調査→知識が体系化→「知恵」となる。

知ること=自分自身の変化

意味のある興味関心=学問的に価値のあるもの。

自分の持つ知識が体系化すると、興味関心や問いの「価値」がわかる。

大きな知識の体系→「知恵ある者」の大きさ

○意見

大学での学びでは、主観的ではなく客観的な視点が重要である。しかし、客観的な視点

コメント [y14]: 箇条書きのような書き方でなく、文章の形で書きましょう。

を持つことはあまり簡単なことではない。自分が「これだ!」と思ったことでも、必ずしも正解とは限らない。自分を中心に考えないようにしたい。

○意見の根拠

大学では、この授業で論理的思考力や物事の多面的に理解する力を養い、説得力のある解答を作らないといけないから。

コメント [y15]: 具体的にどのように考えるのですか？授業では、「自分の頭の中から何か探すのではなく、外の世界（ネットや本など）を調べよう」と説明しました。

今回の授業では、大学生らしい「学び」への姿勢について学習した。大学では高校とは違い決められた科目を試験のために勉強するのではなく、自分の興味関心のあるものを学び、答えのない問題に対しては自分で答えを見つけ与えるものであると知った。ただ、自分が「これが知りたい、調べたい」と思うだけのものを調べたり、解答のない問題に対して「答えがないのなら何でもいいのでは」と解答をでっち上げることは大学での学びではない。必要なのは、学問的に研究する価値のある興味関心に即して学び、客観的な根拠に裏付けられた説得力のある解答を自分なりに見つけることだ。今まで私は、大学では高校と違って自分で学びたいことを見つけて、それについてとことん突き詰めていけると考えていたが、学問的に問う「価値」のある問題を研究するとまでは考えが至っておらず、目からうろこだった。しかし、自分の意見を述べる際に客観的な根拠や証拠を挙げなければならぬのが難しいように感じる。自分の意見を客観的に見つめるというのはある程度の慣れが必要だと私は考える。これからレポートを書いたり書き直したりする中で客観的に自分の意見を見つめられるようになりたい。

コメント [y16]: まずは根拠となるデータや文献をきちんと調べることから始めましょう。

大学で総合科学的思考をするということは正しく考える力が必要である。また、その正しさというのは自分の中の信念や経験に左右されるものではなく、普遍的なものを意味し、皆が領けるようなものである。これらを踏まえると、正しく考えることは自然とできるようになるものではなく、日々の練習が必要である。客観的な根拠やデータを基に調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返し、新たな疑問点や興味を発見しさらに繰り返さなければならない。こうして初めて知識が体系化し、知恵となって自身に還元する。そして、体系の矛盾点や欠陥に気づくことができ、学問的な価値ある興味関心を抱くことが可能になる。一言に「正しく考える」と言っても安易なことではない。しかし、総合科学部で学ぶ本質的な意義を捉えるためにはこれらの能力は必要不可欠だ。

先週の金曜日に受講講義していただいた総合科学入門講座は主に大学に入った後どのような姿勢で勉強するのかを話しました。今まで中国の高校で勉強したことは先生からの話を聞いて、そして問題集を繰り返して解いて、そして間違った問題を復習するというルートなんです。しかし、大学に入った後もう完全に受験の勉強のためではなく、自分の未来のために勉強する形になります。今までは、先生からの話を聞くだけでは十分で本したが、大学では物足りないそれでは不十分かもしれません。大学では倫理論理的の思考力と物事の多面的理解が求められています。そして、先生からの話を聞いて、自分がある上で新しいものを創造しなければいけないことになります。

倫理論理的の思考力・多面的理解は正しく考える力であり、正しく考えるとは客観的な根拠や理由を示して主張することである。大学では自分の興味関心に即して学ぶことができるが、個人的な興味関心に終始してはいけない。また、勝手に解答をでっちあげてもいけない。では、どんな興味関心なら良いのか。それは学問的に価値のある興味関心である。自分の持つ知識が体系化することで、興味関心や問いの価値がわかるようになっていき、大きな知識の体系をつくることで知恵ある者となる。私もこの意見に同意である。1つの物事に関して正面だけの方向で見るのではなく、色々な方向から見るのが大切である。

総合科学入門講座では物事を論理的、客観的にみる力をつけ、自分の意見を伝えることを目的にしている。高校の時にやった小論文でも物事を論理的、客観的にみる必要があったが、小論文の場合すでに資料が出され、その資料に対する自分の考えを主張することが多かった。しかし、大学では一から自分で興味関心があることについて調べ、論理的、多面的に考えなければならない。卒業論文でも総合科学入門講座で学ぶことは大きな力になるため、集中して講義を受ける必要があるだろう。

個人的にも浅く広い知識では話すことがあまりできないので、『自分の中に、どれぐらい大きな知識の体系を作り上げることができるかによって、どれぐらい「知恵ある者」かが決まってくる。』という部分が今回の講義の要点だと感じた。

コメント [y17]: なぜそう感じたのか、理由を書くようにしましょう。

- 1.論理的思考の養成と物事の多面的理解をする力を身につける事が必要 また客観的に考え根拠や理由をもとに主張し、調べ、知り、書き、書き直すの繰り返しが考えを作り出す
- 2.私も客観的に根拠や理由を示し主張することは重要だと考えます
- 3 なぜなら自分でない誰かに説明する時に相手の立場に立ち返って説明しないと主張が相手に正しく伝わらないからです。

学びの始まりというのは学問的に価値のあることに興味・関心を持つこと、論理的な根拠を用いて断片的な知識を集約し、体系化することで知恵となる。大学で学ぶことの目的とはその体系化された知恵を更に拡大させていくことである。また、学びとは絶え間なく次へと繋がり移り変わっていくものであり、興味が推移しなければ学びとは言えず、それ以上展開することが出来なければ知識はただの雑学に成り下がり学んでいるとは言えない。以上が自分が今回の授業で得た知識であり、これらに相違がなければ特に自分が難解であると思った事柄や不明な点、質問等はありません。

今日の講義は大学での学びについてだった。大学で学びに必要な能力は、感情論や主観的な意見ではなく、客観的な根拠や理由を基に主張できることである。また、大学では興味関心から自分が学ぶ事柄を選択できるが、個人的な興味で終わらせるのではなく、客観的、普遍的、社会的な知識につなげてゆき、学問を体系的に学ぶことが必要であり、その体系の中で、欠けている部分や矛盾している部分への問いをすることで、新たな学問的価値を表面化することが、新たな知識体系の構築につながる。これを繰り返すことで、社会で通用する、意味のある知恵を獲得することができる。

私は、学びによって、多角的に事物に応ずることが特に肝要だと考える。理由として、一面的な学びでは問題に対処しきれない、或いは提起できる問題が少なくなるからだ。例えば、紛争という問題は、宗教間の争いや、土地の奪い合い、政治的主張の食い違い、それらの要因が重なって起こるものなど様々である。これに何か一つだけの学問で対処しても、他の要因に対処できない。経済学や政治学、平和学などの多くの観点からの対応が必要だ。また、将来の雇用や暮らしを変えるとされている汎用型 AI が生み出す問題を考える上でも、一面的な知識は通用しない。ただ機械工学の観点だけから見れば、問題は技術や資金などだが、雇用体系の改革や医療への進出に対しては、経済学や生命倫理学の観点から、問題を見極めなければいけない。以上より、私は、複数の観点からの知識を得て、体系的な知恵を構築することで社会に通用する知恵ある者になることが、意味のある学びであると主張する。

高校までは何かについての興味を持ち、調査をして報告するだけ。しかし大学は異なり、興味をきっかけに調査して知識を得、それに伴い興味の持ちどころがかわるとまた調査をし、知識を得る。このようなことを繰り返すことで自分の持つ知識が体系化し興味関心や

問いの価値がわかるようになる、つまり「知恵」を持つことになる。だから知識の体系が大きくなれば、それだけ自分の持つ知恵も多くなる。

大学に学びにきたからには中途半端な「調べ学習」で自分の興味を終わらせてはならない。それは高校までに行えることだからだ。だが、ただ自分の興味のあることだけを学んでいくということも、雑学王になりたいならともかく、あまり推奨されるものではないようだ。自分の持つ知識を深め、体系を大きくするためには物事を多面的に考える力が必要になってくる。だから自分の興味のあることだけが必要なのではなく、知恵を持つ人になろうとするならば、自分の分野とは関係ないようなことを学ぶことも必要となってくるだろう。

今回の授業のテーマは主に、どのようにして自分が興味を持ったことを調査し、考え、知識に繋げるかについてでした。特に印象に残った考え方、知識への繋げ方の2つに要点を絞ろうと思います。

まず、考え方について今日学んだのは、物事を論理的、そして多面的に考えることです。論理的に考えるというのは、自分の感情や直感のままに考えるのではなく、一つのことが起きると次はどういうことが起こりうるか、その時どう判断するのが良いかなどを根拠を元に考えることだと考えます。また、多面的に考えるというのは、一つの物事を自分や自分の意見に近い視点だけから見るのではなく、違う人や違う意見の視点からも見て考えることだと考えます。

次に、興味を持ったことを知識に繋げることについてです。まずは自分が気になる、知りたいと思うことが大切で、そのことについて調査していく中で、関連する他の事に興味に移り変わっていきます。結果的に、もともと自分が調べ始めたこととは全然違う、そしてとても広い範囲の知識を身につけることができます。その中で、全然違う分野の知識と知識が結びつくこともあると考えます。こうして知識が体系化されていきます。

ですが私は、たくさんの知識を身につければつけるほど、正解がない物事や、答えが一つではない物事について、自分の中でたくさんの考えが浮かび上がってくるのではないかと考えます。それは、多面的に物事を考えられている証拠かもしれませんが、自分の考えを人に伝え、納得してもらおうととても難しい状況なのではないかと考えています。もし自分がたくさんの考えを持ったまま判断を委ねられたら、どの視点に立ってどう判断すれば良いかわからなくなるでしょう。そういう場合はどう判断すればいいのでしょうか。

私はまだどう判断、対応すべきか考えられるほどたくさんの知識を持っている訳ではないけれど、もし持っていたら、多面的に物事を考えたうえで、より多くの人が納得できるように、臨機応変に判断をすべきだと考えます。

コメント [y18]: なぜ印象に残ったのか、理由を書きましょう。

コメント [y19]: 実際に知識を身につけてみて初めて分かることです。現時点で心配はご無用です。しっかり学んで多面的な知識をたくさん身につけるようにしましょう。

コメント [y20]: 具体的にどのようにしたら臨機応変に判断できるようになるのでしょうか？

論理的思考力の養成、物事の多面的理解についての授業だった。論理的思考力、多面的理解とは、正しく考える力のこと、客観的な根拠や理由を示さなければならない。そして、それは調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しである。また、断片的な知識ではなく、調査を続けていくことによって、知識は体系化し、「知恵」となり、興味関心や問いに対する価値がわかるようになる。

質問：断片的な知識はいくら集めても「雑学」なのだろうか。

質問する理由：断片的な知識でも、集めていくと体系化するのではないのだろうか、と**思った**から。

自分の解答：断片的なものは、あくまで断片的なもので、バラバラでまとまりのないものだが、体系的というのは、個々の部分が相互に関連して全体としてまとまることなので、断片的な知識でも、相互に関連して体系的な知識となることは**ありうる**。

コメント [y21]: なぜそう思ったのか、理由を書くようにしましょう。

コメント [y22]: 具体的にどういう場合に知識は体系化するか、もう少し踏み込んで具体的に考えてみましょう。

総合科学入門は論理的思考と多面的思考による総合科学的思考の実践を目指している。特に重要な論理的思考とはあるものを調べ、知り、書き、書き直すという一連の繰り返しである。興味を持った分野に対して論理的思考を行うことで、新たな興味が生じ、それに対して論理的思考を繰り返すことで知識の体系化が行われる。

あるものに対する興味は最初は個人的なものであるが、論理的思考を繰り返すことにより、知識の体系化が行われ、体系の矛盾、齟齬を解決するためのものへと変わっていき、それらを解決した時、それは知恵へと変わる。

論理的思考から知識体系を作るにあたって重要なことは前述にある情報を調べて知ることに加えて、実験をしてそれが正しいか検証することだと**思う**。なぜなら人は自身の頭の中にある経験や知識でしか考えることができないと**思われるから**である。それを感じた自身の体験を述べる。

自身はテニスをしていた。ストロークを上達させたいと思っており、プロのフォームをそのまま真似ればその通りの球が打てると考えていた。腕の角度はどれぐらいか、振り上げ角度はどれぐらいか、スタンスの広さはどれぐらいかなどをいつも考えていた。しかし実際コートに立つとその通りには打てない。何かを変える必要があるという焦りもあった。そんな時に一冊の本を偶然見かけた。その本はテクニックの習得に思考は必要ないという内容の書き出しからはじまった。頭で考え、動作を意図的に制御するが重要だと考えていた当時の自身にとってそれは一種のたらめのように感じられた。しかし、一通り読んでみた。大まかな内容は、

1 人間には遺伝的に組み込まれた動作が存在すると同時に、自然習得ができるようにでき

コメント [y23]: 「～と思うから～と思う」という書き方では、思考が自分の「思い」から出ていません。「学ぶには実験が重要だ。なぜなら人は自分の経験でしか考えられないからだ」と書けばよいでしょう。

ている

2 自然習得の柱となるものは対象物(ボール、筋肉の触覚など)の情報を正確に脳に送ること(ここでは正確な情報の妨げとなっているものは思考、エゴとされている)

3 正確な情報を送るために思考を排除する

というものであった。この時点では半信半疑だった。そこで実際に考えることをやめてボールを打ってみた。今まで一向に上達しなかった技を習得することができ、加えて今まで週2回の練習で習得に2か月ほどかかっていた技が3週間程度で習得できた。自然習得は存在するという考えは間違いではないと証明されたと思う。

この経験は、人間は過去の経験や知識(ここではプロの動きに関する外見的知識、またそれらを真似ておけばうまくいくという考え)の範囲でしか考えることができず、自身の知らないもの(ここでは人間に自然習得力が存在すること)を受け入れることができないので、実験(ここでは本に書いてあった内容に沿って実際に練習してみることを)をして検証することが重要であることを示していたと考える。

人間は過去に知ったものでしか考えることができない。もし過去に知っているものがまちがってまちがっていればその後を考えることも必然的に間違える。だから実験を通じて確実に受け入れられる理論を積み重ねて知識の体系を作ることが重要だと思う。

今回の授業の目的は、正しく考える力を付けるということだ。正しく考える力は、客観的な根拠や理由を、文献やデータを用いながら示して主張することだ。調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しで正しく考える力が身につく。また大学での学びは学問的に価値のある興味関心を持つことをきっかけにして、自分の知識が体系化するのである。知識の体系は興味関心や問いの価値の理解につながる。つまりどれだけ大きな知識の体系をつることができるかどうかで、どれだけ知恵ある者になるかが決まるのである。

高校の学びと大学の学びは、最初の興味が変わるか否かという点で違うということに私も賛成だ。高校では調べ学習というものが多かったが、確かに調べ学習の後に興味の持ちどころが変わってさらに調べることは少なかった。高校の調べ学習は、自分のためというよりは、義務だからするというイメージが根づいていると考える。これを大学でも続けてしまうと、意味のある学びが出来ない。高校の調べ学習のイメージは速やかに取り下げて、自分の中に大きな知識の体系をつくり、知恵ある者になるために、学問的に価値のある興味関心をもつことは重要だ。

論理的思考とは、正しく考えることだ。それは、客観的な根拠や理由を示すことである。

コメント [y24]: たしかに実際に経験することや実験することは大切ですが、すべてのことについていちいち実験することは現実的に言って不可能です。この講義では、文献やデータなどを活用して考えるための方法について学びます。

コメント [y25]: そう考える理由を書きましょう。

文献やデータをもとにすると、より根拠が明確になる。また、調べる、知る、書く、書き直すのという作業を繰り返し行うことにより、自分の考えが形成される。

私は、これからの社会を生きるうえで、論理的思考は必要だと考える。なぜなら、論理的思考をすることでお互いが納得し、平等な立場でいられるからだ。例えば、他人と対立したとき、お互い論理的思考をせず、感情や思いで解決しようとする、必ずどちらか強い方が勝ってしまう。だから、感情や、思いではお互いが納得できず、不平等である。

グローバル化により政治や経済などの面で外国と関わる機会が多くある現代だからこそ、より論理的な思考力が求められる。

私は今回の授業を受けて、意味のある興味関心は学問的に価値のあり、客観的なものであることを学んだ。そうであるならば、意味のない興味関心とはどのようなものであるかについて考察した。

授業で述べられていたように、意味のない興味関心とは個人的な興味関心に終始してしまうものである。私はその個人的な興味関心は、趣味であると考える。趣味という単語を新明解国語辞典で調べると「その人の好みの傾向」、デジタル大辞泉では「その人の感覚の在り方」と記されていた。つまり、趣味はその個人の主観的なものであり、意味のない興味関心なのである。

これから私は趣味を持ちつつも主観的にならず、学問的に価値のある意味のある客観的な興味関心を追求していきたい。

今回の授業では、知識を体系化させ、知恵を作ることの重要性や、どうやったら知識が体系化するのかについて学んだ。客観的な根拠や理由を示しながら、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しで、論理的思考力や物事の多面的理解を養っていく。すると、個人的な興味関心が学問的に意味のある興味関心へと変化し、大きな知識体系となる。どれだけその「知識体系」を大きくできるかが非常に重要になる。以上が今回の授業の要点だ。

大きな知識体系を作るためには、断片的な知識(雑学)どうしをつなぐ部分が重要であると私は考える。雑学どうしをつなぐ何かがないと、学問は体系化しない。断片的な知識から次の知識へと学ぶことによってその2つをつなぐのは出来るかもしれないが、全く別の断片的な知識から、その2つを結びつけるのは難しいと思う。思いつきや偶然の発想によってしか、なかなか結びつけるのは難しいのではないだろうか。入学式では、学長がそのような偶然は、学問を極めて極めて、その先に偶然現れるものだとおっしゃっていました。もちろん、私の中では多少体系化した学問もあるかもしれないが、大体はきちんと結びつ

いていない断片的なものばかりだ。それをどうつなぎ、大きな知恵にしていくのか、**なかなか難しいと思う。**

コメント [y26]: 難しいからこそ頑張る価値があるのです。

今日の授業では、大学での学びに必要な心構え等の説明をしてもらった。そこで、重要なことの1つに論理的思考力を養うということが挙げられる。どんな議論についても、主観的な感情を表に出すことなく、客観的な根拠に基づく論理的な説明があって初めて他の人に自分の主張を納得してもらえると肝に命じておきたい。高校までは、受験のための断片的な知識を得ることを目的として学習してきたが、大学では、「知識の体系」を育てるための体系的な学びが必要だということがわかった。私は、今までの学習において、正解を導いて満足し、それ以上その問題について考えようとしていなかったが、大学においてそれでは通用しないため、学習に対する姿勢を根本的に改めていかなければならない。また、大学に入ってから何度も耳にした「大学での学習は答えのない、あるいは答えが複数ある問題について考えなければならない」という言葉は、決して数分で考えることができるような適当な答えや、何の理由も根拠もない答えを出せばいいという意味ではなく、その問題について様々な角度から調べたうえで、客観的な根拠に基づいた答えを求める必要があるということを意味していることもわかった。これまで論文等はもちろんのこと、まともに論理的な文章を書くという経験もほとんどないため、自分の書いた文章が主観的で感情的なものになっていないか、根拠や理由はあるのか、他の人が見て納得できるようになっているのか等を常に確認し、意識しながら課題やレポートに取り組んでいこうと思う。

論理的思考力の養成と物事の多面的理解は正しく考える力と等しい。客観的な根拠や理由を示して主張して、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返して正しく考える。調査の時点で興味のあることを調査して、知識が付き、興味が変わり、また調査をして、新たな知識がつくことを繰り返すことによって知識が体系化する。これが知恵に変わる。知ることを通して自分自身が変化するのは、知識がつくからだ**考える。**

知識をたくさん得ると知恵ある者になれると言うが、知恵は自分の中にある複数の知識の組み合わせであり、パクリではないのか?これに対する**私の意見**は、たとえ複数の知識の組み合わせであっても、組み合わせができることが知恵なのであるということだ。

コメント [y27]: なぜそう考えるのか、理由を書くようにしましょう。

初回授業の要点は、大きな体系を身に着けることは知恵になるということです。知識の体系を大きくするためには、よりたくさんの方に興味を持つことが必要です。何かを調べるきっかけは興味を持つところからであることは今までと変わらないので、自分が抱いた疑問や興味を大切にしていくことが知識の体系を大きくすることにつながると考えています。中には調べても全く正解が見えてこないことがあるかもしれません。しかし、サイエンス・ライターのアニー・マーフィー・ポール氏は、知識を身に着けるには人は失敗が必要だと**言っています**。仮に、いくら調べても正解が出てこない問いを失敗とすると、これをポール氏は「生産的な失敗」と呼んでいます。失敗を乗り越えることで大きな利益を得ることができるそうです。失敗することは、嫌なことだと捉えがちですがこれを聞くと失敗するのも悪いことではないなと思えます。大学 4 年間はあっという間に終わるので、たくさん色々なことに挑戦して失敗して「知恵ある人」になりたいです。

コメント [y28]: どこで言っているのか、出典を書くようにしましょう。「引用の作法」については次回の授業で取り上げます。

まず要点の 1 つ目は総合科学入門講座で学ぶ事は論理的思考力と多面的理解に基づく客観的な主張であるという事。2 つ目は体系の大きさはすなわち知恵であり逆に断片的な知識はいくら集めても雑学という事。

それについての意見は特に 2 つ目は経験があるという事。高校の授業でもよく理解していた教科はそれぞれの知識が独立させず繋げて考えることができていた。

論理的思考力が大事だとよく言われるがその能力を測る機会がなかったので、後期の課題発見ゼミナールまでに論理的思考力や物事の多面的理解する力を養っていきたい。様々な物事に興味を持つために、多くの本を読むほかに、いったい何があるのか。私は、興味を持つきっかけだけなら、SNS やインターネットを通じて興味を持つこともいいと**思う**。確かにインターネットは index(索引)と揶揄されるが、初見の人にとって腑に落ちやすいもの**だろう**から私はそのように考えた。

今回の講義で最も重要なことは、大学での学びは、「興味から知識へ、知識から知恵へ」であり、大学は自分の「知識体系」を可能な限り大きくし、「知恵ある者」になるための場であると理解することだと考える。なぜなら、大学は自らの興味関心に即して学ぶ所であると分かっているながら、自分はその本当の意味を理解できていなかったとこの講義を通じて痛感したからだ。総合科学基礎入門講座は論理的思考力の養成と、物事の多面的理解を

するために開講されたもので、論理的思考力、多面的理解とはつまり総合科学的思考であり、正しく考える力である。「正しく考える」は調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しによって成り立つものであると知り、大学での学びとはどういったものか、に対する漠然とした理解が明確になる兆しを感じられた。

また講義を通して、明確な価値判断、意思決定のできる人として社会に出たいと思った。なぜならば社会に出て必要とされるのは単なる雑学ではなく、知恵ある知識体系の大きい人であり、そのような人材は例えば会社において次の議論を導き会社をよりよくする人材であると考えられるからだ。では、明確な価値判断、意思決定ができるようになるにはどうすれば良いのか。普段の学びの中で自分が究めていきたいものを見つけ、それに対するアプローチにこの講義で学んだことを生かし、何度も体系的練習をする必要があると考える。様々な学問の融合地である総合科学部に入ったからこそその学びを、四年かけてやっていきたいと強く思った。

物事を思考するにあたって、論理的思考と多面的に理解する能力が必要となる。これらは正しく考えるということであり、客観的な根拠や理由を示して主張し、調べる・知る・書く・書き直すという流れを繰り返すということである。大学では、正解のない問いに自分で解答を与えなければならないが、「正解がない」といっても「誤答」はあるので、勝手な解答をでっちあげてはならない。解答する際には、根拠のない意見・理由や自分の感性で解答するのではなく、文献やデータなどに基づいた根拠ある理由を示した説得力のある解答を生み出すべきである。また、大学では自分の興味関心に即して学ぶが、個人的な興味関心に終止しないことが重要である。学問的に価値のある興味関心から、調査し、知識を得る。その流れで興味の持ち所が変化した場合には、また調査・知識の獲得を繰り返し、最終的に知恵を得る。このように知識を体系化していくことで興味関心の価値がわかるようになる。断片的な知識を集めてもただの雑学にしかすぎない。大きな知識の体系を作り上げ、「知恵ある者」になることが大学での学びにおいて重要なことである。

今回の授業の要点は、客観的な根拠や理由による説得力のある主張ができるようになることが重要であるということと、断片的な知識ではなく体系化された知識を持つことが重要であるということである。

私は、大学生の間は可能な限り読書をするのが大切であると考えました。理由は、読書することで他者の考え方を客観的に観察できる上、多くの既に体系化された知識を手に入れることができるからです。

総合科学部に必要なのは、論理的思考力の養成と物事の多面的理解である。そのためには、個人的な考えではなく客観的に主張し、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しが大切である。そして、あることに興味を持ち、その興味の対象は変わりながら断片的な知識が体系化し、知恵となる。そこで私は、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しの中に、**他の人との討論**を付け加えるとより良いと思う。なぜなら最初に述べたように多面的理解というものが大切になっており、そのために自分だけで調べて納得するのではなく、他の人の意見を聞いたり、自分の考えに対して意見してもらえることで、様々な考えに基づくことができ、多面的理解ができるようになるからである。私はこれから総合科学部で論理的思考力の養成と物事の多面的理解のために自分で考えることはもちろん、友達との話し合いにより、さらに良い考えを身につけていきたいと思う。

コメント [y29]: それはよいことです。後期の「課題発見ゼミ」など、少人数の授業では討論や対話による共同作業を行います。この授業では、文献やデータなどを使って調べる方法や作法を学んでください。

大学では自分の興味関心に即して学ぶ。この場合の興味は、個人的な興味関心で終わるのではなく、さらにその興味を調べ知識とし、興味のもちどころを変化させ、またさらに調べることによって知識が体系化し「知恵」となる。また、興味関心を意味あるものにするには学問的に価値のあるものがよい。その価値は自分の持っている知識が体系化することによって分かる。知識の体系の大きさによってどれくらい「知恵ある者」かを判断でき、大学ではそのような人材になることを目標とする。

質問：断片的な知識を持った雑学者と知識の体系を持った知恵ある者を見分けるにはどうしたらよいのか。

自分の解答：**見分けることは難しい。**

根拠：例えば、ある人が私の知らない情報を教えてくれたとする。もちろん私はその人がどのような研究をして、どのような手段でその情報を手に入れたのかは分からないので、雑学者なのか、知恵ある人なのか分からない。とりあえずそのまま情報を鵜呑みにするだろう。よくテレビ番組などで雑学王や頭のいい人が自分の持っている知識を当たり前のように話している。さすがに嘘を話しているとは思わないので、多くの人は私と同様その話を信じる、または、出身大学などの学歴で判断する人もいるかもしれない。今の時代インターネットを使えば、あの人はこういう研究をして、こういう論文を書いて、また別の人は経験したことからあの話をしている、などのある程度のことは分かるかもしれないが、何も調べるものがない状態でこのような状況になれば判断のしようがないと考える。

コメント [y30]: 私などから見れば、一言、二言ことばを交わせばすぐにわかります。「他人の評価」を的確に行うためには、自分自身が知識の体系を備えていることが必要です。

1 授業内容

巨大な知識を背景に妥当な判断ができる人が知恵のある人である。そうなるためには、自分の持つ知識を体系化し、学問的に価値がある興味関心に分かるように、日々勉強に励む必要がある。

2 意見、3 根拠

私は、先生の考えに賛成である。私が高校生のとき、つまづいた数学の問題があった。解説を読んでみると、私が知っている公式に当てはめれば解ける問題であった。この経験から、知識が頭の中で整理できていなければ、それを完全には活用することができないと学んだ。現在は講義の前後に、自分なりに内容をまとめ、知りたいことを調べるようにしている。この習慣を続けることで、先生のおっしゃるような「知識のある人」になれるのではないかと考えている。

コメント [y31]: もちろん、一つの知識を活用するためには練習が必要です。ただ、ある一つの知識を活用することと、多面的な知識を体系化することとは、別のことです。

正しく考える力とは、自分の頭に入っているものだけを引き出して考えるのではなく、文献やデータなど、調べた情報を使って根拠や理由を主張するということ。そのためには、調べ、知り、書き、書き直すを繰り返す大切さが分かった。

また、意味のある興味関心とは、学問的に意味のあるもので、興味関心や、問いの「価値」が分かるように、ものは自分の持つ知識が体系化するということと、知識の体系が大きくなって初めて知恵になるということも分かった。

興味関心や知識、また論理的な主張などについて多くのことが分かったが、その中でも特に正しく考える力についての内容が印象深かった。正しく考える力とは、自分の頭に入っているものだけでより良い考え方をするものだと思っていた。

コメント [y32]: 具体的にどんな内容か書いてください。

正しく考えるには、「感じる力」が最も必要とされる。元プロ野球選手の野村克也さんが監督として、まず選手たちの「感じる力」を養うために、何よりも大切にしていた内容が根拠となる。なぜなら、ミーティングで人間教育を地道に行っていた。そして、チームが感じる力を身につけた選手達から成っていたからこそ、自ら考え行動する最強の集団が作り上げられたからだ。

コメント [y33]: スポーツの能力を上げるための練習法と、考える力を上げるための練習法とは異なります。考える力を養うためには、「感じるな、考えろ Don't feel, think」です。

論理的思考力と物事への多面的理解が正しく考える力となる。考えは調査、知識の吸収、文章化、文章の書き直しを繰り返すことで形成される。考えの主張には客観的根拠や理由が必要である。また、大学での学びとは個人的な興味関心に終始するものではなく、客観的で説得力のある解答を目指さなくてはならない。自身の知識を体系化し、妥当性のある

価値判断、意思決定ができる、知恵者となることが求められる。

今回の内容は良く理解できた。大学で学問を修める際にも、社会の一員としても、身に付けておくべき力である。また、どの分野を学ぶ場合にも意識し、練習を重ねたい。

総合科学入門講座では、主に「論理的思考力の養成」と「物事の多面的理解」を身に着けることが大切であり、課題発見ゼミナールではその 2 つを実践練習を積んでいくのである。総合科学的思考とは、「客観的根拠・理由を文章内に明示」し、「調べて、知り、書き、書き直す」ことを繰り返すである。大学では、高校までと違って「興味」のある学問を専攻して学ぶことになる。その際に、興味関心とは学問的に価値のあるものでなくてはならない。また、興味関心を追求し、調査することによって知識が身につく。すると、興味関心の持ち所が徐々に変化していくことになる。その変化した興味関心をさらに追求していくことによって、知識は次第に体系化していくことになる。知識の体系化は私達に興味関心や問いの価値がどのようなものであるかを認識させる。私達にとって大切なことは、「知識の体系化を大きくして、知恵ある者」になることである。

これらのことから考えられることは、論理的思考力の養成に必要な「繰り返す」という行為が大切だということだ。「繰り返す」という行為が有効であることは様々な方面から証明されている。**エビングハウス**の忘却曲線によると、「学習後何もしなかった場合 20 分後には 42%、1 日経つと 74%忘れる」との実験結果がある。さらに数学のサイコロの確立の問題であっても何回も投げるという試行を繰り返すことによってある正しい値に収束する。実体験から踏まえると、受験勉強で単語を覚える時に 1 日目は 1 から 50 までの単語を覚えた。2 日目は 1 から 100 までの単語を覚えるようにした。3 日目は 50~150 を覚えた。これを毎日した。すると順番に単語を覚えるよりは覚えやすかった。そしてそれは単語テストに反映された。順番に覚えるよりも点数が 20 点上がっていた。これらのことを踏まえると、やはり「繰り返す」という行為が論理的思考の獲得に多大な貢献をしていることが分かる。

「論理的思考力の養成」と「物事の多面的理解」を根底から支えているのは 4 つの過程を「繰り返す」という行為である。「繰り返し」という行為が無ければ、表面的知識でしかないものになってしまう。要するに、私たちは「繰り返し」という行為を常に念頭に置いて物事を考える必要がある。そのことによって知識の体系化が生まれることにもつながるのである。

知恵ある者になるためには、大学での学びを通して知識の体系を可能な限り大きく育てることが大切である。大学入門講座シリーズより論理的思考力・多面的理解力を養える。

コメント [y34]: 出典を書きましょう。出典の書き方については次回の授業で取り上げます。

また、学問的に価値ある興味関心をきっかけにして新たに知識が備わる。そこで私は「学問的に価値ある興味関心」とは一体何なのかを考えた。高校までの個人的な興味関心に終了した学びが大学では求められていないこと、また学者が学問的に価値ある興味関心から選り研究を行っていることから考えてみる。興味から知識へ知識から知恵へと変わりゆくことによって自分自身の知識体系が広がるとともに、同じ学問を専攻する人と学びを共有することによって、また刺激を与え受けることによって、研究の結果によって、他者にもプラス面での影響を及ぼすことができるのではないだろうか。青色発光ダイオードを発明した中沢修二氏のように、長く続けた学問的に価値ある興味関心から学びを深めることにより、自身だけでなく他者に対しても効果的に作用できると考えた。大学では自分自身の知識体系を可能な限り大きく育て知恵ある者となるとともに、社会貢献ができるよう学問的に価値ある興味関心をきっかけに学びを深めていきたい。

コメント [y35]: この問いに対する答えがどの部分なのか、よくわかりません。

高校までと大学での学びの違いとしては興味が次第に変わっていくことがあげられる。高校までの学びは興味を持ったものを調査し報告して終了、と興味に変化していない。しかし、大学では興味を持ったものに対して調査を行い、新しい知識を身につけていく中で興味の持ちどころが変化していく。変化した興味をさらに調査することで知識が断片的ではなく体系化しそれが知恵となる。断片的な知識はただの雑学に過ぎないが、知識が体系化した知恵は判断する力になる。これらの知恵は合理的な考え方をサポートするものである。大学の役割の1つに主権者として合理的な考え方を身につけるための環境を整えることがある。整った環境、時間が許される大学生活であるからこそ、一人一人が興味を持つものに対して主体的に積極的に動くことが可能になり、重要である。大学で過ごす時間は社会人に向けての準備期間であり休息ではない。自分次第でより有意義なものに変えられるのである。故に大学では興味から知識へ、知識から知恵へと変化する学びに主体的に取り組むことで知恵ある者を目指せるのである。

SIH 道場では大学生生活をスムーズにスタートするためのことをしたり、論理的思考力を身につけて行く。総合科学入門講座では先のことに加えて物事の多面的理解もできるようにしていく。また、後期の課題発見ゼミナールではそれらの実戦実践練習を行っていく。

この授業の目的は正しく考える力をつけること。

正しく考える力とは文献やデータなどの客観的な証拠や理由から答えを導く力。

大学では自分の興味のあることを学ぶのだが、個人的な興味に走ってはいけない。

興味をきっかけにして学んでいくことで知識が体系化し知恵となる。

コメント [y36]: 以下、箇条書き風の書き方です。文章の形で書くようにしましょう。

知ることが、自分自身の変化につながる。

自分の持つ知識が体系化することで意味のある興味関心かどうかがわかるようになる。

知識の体系の大きさをどれくらい「知恵ある者」かが決まってくる。

私はこの授業を受けてこれからの大学生活を通してもっと知識を身に着け体系化させることが重要だと感じた。その根拠は授業にもあったように断片的な知識ばかりでは、それはただの雑学止まりに過ぎない。だが知識が積み重なり体系化していくことで知恵ある者となることができるからだ。

総合科学入門講座では正しく考える力を養う。正しく考えるとは、客観的な根拠や理由を示して主張することである。また、大学では学問的に価値のある題材から自分の興味関心に即して研究する。自分の興味をきっかけに調査し、知識を体系化させることで知恵ある者となる。短い大学生活のなかで知恵ある者になることは簡単なことではないので、研究の積み重ねが必要だと思った。

今回の授業で総合科学部の学生として学ぶ上で必要なことについて知ったが、その中で最も重要であるのは、「大きな知識体系をつくる」ことだ。なぜなら私が今持ち合わせている知識は、やはり単なる知識に過ぎず有効活用できていないからだ。今ある知識と今後身に付ける知識を結び付けることで、現代社会を取り巻く問題の解決に尽力したい。そのためにも、総合科学部でフィールドワークに取り組み、福祉社会論や経済学、また理系科目にも触れることで自分が今直面している問題にはどの分野の知識を要するかを判断し、解決の糸口をつかむ能力を身に付けたい。

今回の講義は、高校までの学び方は、自分が始めに興味を持った事柄についてのみを深く掘り下げて調べ、それを自分の感想とともに発表していたが、大学では、始めは自分の興味関心のあるテーマを調べ、同時にそのテーマの周辺の情報も多面的に調べていく。その際初めに考えていたテーマから興味関心がずれてもよい。大事なことは、新しく生まれた自分のテーマや疑問を客観的に、かつ誰にでも分かるような妥当な説明をすることで、たくさん調べれば調べるほどその知識は互いを支えあい、自分の為になる。というような内容でしたが、これに対して質問があります。自分の調べたことについて客観的に妥当な説明をするまで調べ続ける。ということを知りましたが、誰もが納得するような説明はどこ

まですればいいのでしょうか?世の中にはすごく賢い人がたくさんいて、その人達はきっと自分が考えもしていなかった自分の意見に対する反論を言ってくると思います。講義で習ったように、多面的な意見がありますから、自分のテーマに少しでも関わっていることがあったら、それを徹底的に調べる。ということをするとしたら、終わりがありません。私が考える終わりは、自分が納得出来るところまでだと思えます。それには個人差がありますが、始めは自分の興味で調べ始めたことなので、終わりも自分で決めていいと思えました。実際に、亡くなるまで研究をし続けた数学者のレオンハルト・オイラーという偉大な人もいます。他人から欠点を指摘されてまた研究してもいいですし、自分はやりとげた。と思うところまでやって、終わりにしてもいいと思えます。とにかく、始まりも終わりも、自分が決めるということです。

コメント [y37]: 実際にやってみれば、「自分が納得」というのは、「ほかの人も納得」と同じことだということがわかるでしょう。

今回の講義の要点は、文献やデータなどの客観的な根拠や理由を示して主張し、「調べ、知り、書き、書き直し」を行う事で、正しく考える力が養われるという事である。また、学問的に価値のある興味関心から調査を行う事で、自分自身の知識となり、興味の持ちどころが変化してゆく。さらに、調査をし続けると、知識の体系化により知恵となってゆく。

では、私たちが「調べ、知り、書き、書き直し」と試行錯誤を繰り返す際に、論理的思考力や多面的理解が得られたと感じる瞬間はどのような時だろうか。例えば、発明品のように物体として存在するものは、動く・動かないなど目に見える結果がもたらされる。しかし、正しく考える力は物体として存在せず、目に見える結果がもたらされにくい。だから、人に何かを説明する際、聞き手の反応が手掛かりになると考える。例えば、あいづちである。『あいづちの心的効果』という論文によると、「聞き手が話題に対して肯定的な思いを抱いているときにはあいづちの頻度が高くなり、話題に対して否定的な思いを抱いているときにはあいづちの頻度が低くなることを示している。この結果からは、話の内容に対する聞き手の感想やそのときの体験があいづちに関わることがうかがえる。」と示されている。(https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/57549/1/eda051_218.pdf#search=%27%E3%81%82%E3%81%84%E3%81%A5%E3%81%A1+%E5%8A%B9%E6%9E%9C%27 2018/4/14 アクセス)従って、聞き手のあいづちにより、自分の考えに対する多面的理解が少しでも得られたと感じるのではないだろうか。

コメント [y38]: 著者はだれか、書くようにしましょう。

授業内容の要点のうち最も重要視すべき点として、知識の体系化があげられる。自分の中に知識の体系化を作り上げることができた人は、知恵ある者といえる。知識の体系化を

コメント [y39]: そのように「感じる」と、実際にあなたの論証が説得的であるかということは、別のことです。これから、実際にやってみることで、「ああ、この問題についてはこう解答するしかない」という瞬間が訪れるときがあるでしょう。

行う上で、学問的に意味のある興味をもち調査し、興味を持ちどころが変化したところでさらに調査を重ねるという過程が重要になってくる。また調査を行う中で、正しく考える力、つまり論理的思考力と多面的理解が求められる。客観的な根拠や理由に基づき知識の体系化を行うには大学時代が最も適していると私は考える。中等・高等教育においても課題解決を学ぶ機会は与えられている。しかし、自分自身の興味関心のある内容と必ずしも結びついたものではない。そのため、興味の薄い内容は持ちどころの変化が少なく断片的な知識になりやすい。その結果、雑学という扱いになってしまう。興味があるからこそ、自主性が生まれ調査によって得た知恵とともに興味のもちどころも変化し体系化する。大学での学びには知識の体系化に必要な過程を踏むための十分な機会と時間、そして広範囲の学習分野がある。以上から大学 4 年間は知識の体系化を積極的に進めるべき時期といえる。

【総合科学入門講座で学ぶこと】論理的思考力の養成+物事の多面的理解

【目的】根拠、理由を示す。調べ、知り、書き、書き直すの繰り返し。

【興味関心】個人的なものに固執する、勝手に解答を作るのはダメ。

【興味→知識→知恵】興味の変化→調査→知識の体系化→知恵。知ることは自分自身を変えることにつながる

【意味のある興味関心】学問的に価値のあるもの。自分の知識の体系化→興味関心や問いの価値がわかる。大きな知識の体系=知恵

コメント [y40]: 箇条書きでなく、文章の形で書くようにしましょう。

この総合化学科学入門講座の授業は、「論理的思考力の養成」と「物事の多面的理解」を目的としている。

論理的思考力・物事の多面的理解は「正しく考える力」のことである。ただしくかんがえるには、客観的な根拠や理由を示すために文献やデータを示さなければならない。自分の考えと他者の考えを区別するために、自分の「感想」や「妄想」は混入してはいけない。大学では、「自分の興味関心に即して学ぶ」。しかし、「個人的な興味関心に終始してはいけない」。研究も高校までの「調べ学習」ではいけない。例えば、自家用車がプリウスだったのでハイブリットカーに興味を持ち、それについて調査・報告をするだけでは、最初の興味のままで終わってしまう。興味をきっかけに、調査を繰り返し、知識を得て、知識を体系化し、知恵を身につけなければならない。

研究するテーマも自分一人の興味関心を満たすだけではいけない。研究者も、自分の興味関心の中から、学問的に価値あるものを選んでいく。自分の興味・関心に関する知識を体系化することで、学問的な「価値」を持たせる必要がある。

高校3年生の時に、一人一つずつ論文を書いた。私は「窃盗罪が成立する条件(窃盗罪のボーダー)」について研究したが、判例を参考に考察することしか出来なかった。今思えば、「調べ学習」で止まっていたと思う。例えば、「被告人(63)が、スーパーのお菓子を万引きした。しかし、被告人は3年前に自宅で転倒し、足が不自由であり、介護が必要となっており、はじめは家族が被告人の介護をしてくれていたが、様々な環境の変化から、被告人の介護が困難になり、被告人が『逮捕されて、留置場の中で生活したほうがましだ』と考えての犯行であった。お菓子は食べるつもりはなかった。」という判例事件の場合、単に「被告人が窃盗罪であるか否か」だけではなく、「被告人が盗んだお菓子を、被告人は食べるつもりがなかったとしても、そのお菓子がもし被告人の好物であれば、被告人に不法領得の意思が認められるのではないか」とか、「被告人の家庭環境の問題の解決方法」など、考察を広げることができるだろう。大学ではこのように高校のときよりもよりも深く突っ込んだ内容のレポートを作り上げていきたい。

コメント [y41]: 本件が「窃盗罪」に該当することは明白です。あなたが言いたいのは、被告の行為に対してどのような処罰を下すのが妥当か(量刑)という問題ではないですか？

総合科学入門講座の目的は論理的思考力と多面的理解、つまり、正しく考える力を養成することである。「正しく考える」とは、1つは、思い込みや信念のような主観的なことではなく、文献やデータなどの客観的な根拠や理由を示して主張することである。もう一つは調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しであり、反復練習である。頭の中にあるものを取り出してくるのではない。

大学での学びは個人の興味関心に終始してはならず、正解のない問題に勝手に回答をでっちあげてもいけない。客観的、普遍的、社会的に考え、説得力のある解答をしなければならない。また、興味をきっかけにしての学びも大切である。最初の興味について調査し、知識を身につけ、興味の持ちどころが変わってきたらさらに調査をする、そうして知識が体系化され知恵になるのである。この時興味関心は学問的価値のあるものでなければならない。持っている知識を体系化すれば、興味関心や問いの価値が分かるようになる。知識はそれ自身としてお互いに支えあう体系となっているため、自分の中にどれくらい大きな知識の体系を上げることができるかによってどれくらい「知識ある者」かが決まってくる。「この問題には答えはありません」と言って質問されたことがあったので、正解がない問題に誤答があるということを知らなかったが、この講義で解答するときには根拠を持って説得力のある解答をしなければならないとわかった。

1.総合科学入門講座の目的とは、論理的思考力と多面的理解であり、それは「正しく考える力」と言える。文献やデータといった客観的根拠や理由を示して主張することや、

調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しにより、その「正しく考える力」が身につく。その時、個人的な興味関心に終始したり、勝手に解答をでっちあげたりしないようにすることが大切だ。大学で行う、興味をきっかけにしての学びの流れとは具体的に、「興味から始まり調査を行い、そしてその知識により興味の持ち所が変化、そこからさらに調査をし、知識が体系化し、『知恵』へとつながる」というものだ。このとき、「学問的に価値のある興味関心」に基づくと良い。知識はそれ自身として、お互いに支え合う体系となっている。自分の中にとのくらしいの大きな知識の体系を作ることができるかによって、どれくらい「知恵ある者」かが決まってくる。

2.総合科学部では自分の興味をもとに少し関連がある話題に触れてみて、知識の体系を作りに上げていくことが大切だと**思う**。

3.たとえ専門的な分野であっても学習のなかで必ず別の分野が関係していて、その知識が必要になるときが必ず来るからだ。得た知識が増えていくと、興味の持ちどころが変化し、広い視野を持った考え方ができるようになっていく。そのようにして、私たちは「知恵ある者」になることができると**思う**。

コメント [y42]: 「～だと思ふ。なぜなら、～と思ふからだ」という書き方では、あなたの頭の中から出ていません。

今日の授業内容は、正しい考え方についてでした。正しく考えるとは、客観的な根拠や理由を示して主張するなど、調べ、知り、書き、直すといった一連の動作の繰り返しです。大学では、自分で知識の体系を育て、可能な限り知恵と知識を持ち合わせた**人材**になることが目的であり、最初に持った興味・関心をきっかけに、様々な問題に触れることで、知識が体系化し、知恵となるということを学びました。このことから、自分の興味・関心に対して考える過程で、新たな疑問が生まれ、その疑問について考えていくことで、学問的考え方が身につくのではないかと**思いました**。なぜなら、学問的考え方は、最初から備わっているものではなく、日々の積み重ねによって身につくものだからです。例えば、新聞やニュースを見ると、今まで知らなかった言葉や、自分とは違う物事の見方など、新しい発見があります。それらを自分なりに調べ、自分との関係について考えることで、論理的思考力や物事の多面的理解が身についていくと**思います**。

コメント [y43]: 私は「人材」でなく、「人間」と言いましたが。

私は今回の授業を通して、客観的に根拠や理由を示すことで誰もが納得のいく解答ができ、正しい考えることにつながるということ、また知識が体系化することによって、それが知恵となり、自分自身の変化につながるということが分かりました。

私も、誰もが納得のいく解答を出すためには客観的に根拠や理由を示すべきだと**思いました**。これを実感したのは、中学校の数学の授業で習った証明です。証明のやり方も様々で

すが、最終的にはすべての人を納得させなければ、正解にはなりません。だからもし正解のない問題に直面しても、証明のように人それぞれに説明は違って、誰もが納得する解答が必要だと **思います**。

私は今回の授業で「知識」と「知恵」の違いは何か、またその二つの境はどこで決まるのかということをととても疑問に感じました。

私は「知識」とは勉強や人の話を通して得たもの、そして「知恵」とは実際の経験を通して得たものと **考えています**。よく学校では、「〇〇の知識を養う」という言葉をよく耳にするように、「知識」は学生が先生たちなどの他人から得たものです。それとは逆に「おばあちゃんの知恵」という言葉をよく耳にするように、「知恵」はその人の経験によって自ら得たものです。他人から得たものと自ら得たもの、これが「知識」と「知恵」の違いだと **考えています**。そして物事をどのように得たかによって、二つの境が決まると **思います**。

コメント [y44]: 一つ一つの正しい情報が「知識」。知識を体系化することで「知恵」になる。そのように説明しました。

総合科学的思考というのは、客観的な根拠に基づいたものを、調べ、知り、課題をその都度見つけ、書き直すことを繰り返し、正しく考えることです。そうした過程を形成するために、まずは、学問的な興味を持ちます、そして調べ、知識をつけると興味が変わる、そういう経験を積み重ねます。そうすると知識の体系ができてきます。

ぼくは、まず調べる前に、自分の予想や意見を定めるべきだと **思います**。それは、結果と自身の ~~いけん~~ **意見** との相違点を知ること、根拠を知ることができ、さらに、強い体系を形成できると **感じたから** です。

コメント [y45]: 「～と思う。なぜなら～と感じたからです」という書き方では、あなたの頭の中から出ていません。

[授業での要点]

1 総合科学入門講座の目的は、論理的思考力の養成と物事の多面的理解(=総合科学的思考)を身に付けることである。

2 「正しく考える」とは、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返し、主張する際に客観的な根拠や理由を示すことができる考え方のことである。

3 大学での学びでは、学問的に価値のある興味・関心に基づいて調査する。それで得た知識により興味を持ちどころが変化すればさらに調査し、知識が体系化してくる(知恵となる)。そうして「知恵ある者」(=妥当な考え方ができ、妥当な価値あるものがわかる者)になることを目指す。

[意見]

2 について、客観的な考え方をするにはひとつの情報媒体に偏らず様々な情報源から情報を取得し、正しいかを吟味する必要がある。

総合科学入門講座の目的は論理的思考力・多面的理解という正しく考える力をつけることである。正しく考えるとは文献やデータなどの客観的な根拠や理由を示して主張することであり、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しである。興味関心は個人的なものだけでなく、学問的に価値のある興味関心でなければならない。興味を持ったものを調査し知識がつくと、興味の持ち所が変わっていく。そしてさらに調査することで知識が体系化していき知恵になる。自分の持つ知識が体系化することで、興味関心や問いの「価値」が分かるようになる。大学で、自分の「知識の体系」を大きく育て、物事の価値のわかる「知恵ある者」になるために体系的な練習が必要である。

調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しが重要だと**思った**。高校までにしてきた「調べ学習」では客観的な視点から考えることはなかったからだ。調べ、知り、書き、書き直すの繰り返しを大切に、客観的な根拠や理由を示し、誰もが納得するように主張できるようにしたい。

総合科学入門講座での目的は、客観的な根拠や理由を示して主張し、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返して、総合科学的思考である正しく考える力を養成することである。個人的な興味・関心ではなく学問的に価値のある興味・関心について調査し、知識の体系を可能な限り大きく育て「知恵ある者」になるために、体系的な練習をする。

私は、この講座で学ぶ、論理的思考をし、物事を多面的に理解する力はこれから社会に出ていく中で非常に重要だと**思う**。物事を論理的に考え、多面的に理解することによって、自分の興味が広がり、自分自身の成長にもつながるからだ。この講座を通して「知恵ある者」になれるように努力したい。

最近まで頻繁に行われていた SIH 道場は友達作りや入学前の心構え、そして論理的思考力の養成を主としていたが、今回から始まる総合科学入門講座は先程までの能力に加えて、物事を多面的に理解する能力も必要となってくる。論理的思考力と物事の多面的理解がかけあわさって初めて正しく考える力というものが身につくのだ。その力が身についたあかつきには、自身の感情や信念で物事を判断するのではなく、客観的な根拠や理由を示して説得力のある解答をすることができるようになるだろう。正しく考える力を身に付けるためには、高校までの「調べ学習」から脱却し、調査後に知を体系化し、そこから知恵にま

で昇華させなければならない。知恵は様々な学問的興味関心を引き起こし、巨大な知の体系を作り上げる。多種多様な知恵を身に付けると、自ずから客観的思考をするようになるだろう。

私も高校三年生までは一面的な見方、考え方ができず、客観的に視るということが全くできませんでした。一年間の辛い浪人生活を経て、様々なことに対して興味関心・疑問をもつようになって、他人の気持ちを考えることができるようになりました。そこで質問です、私の場合は人生の挫折・どん底を経験したことによって客観的に考えられるようになったのですが、この経験が知恵となつて私自身に影響を及ぼしたということなのでしょうか。私はそうであると考えています。なぜなら自分が傷を受けることによって、他人の受けた傷をも容易に想像することが出来、共感能力に磨きがかかると考えるからです。

コメント [y46]: 授業で述べた「知恵」とは知識体系という意味ですから、ここであなたが言う「実体験に基づく知識」という意味とは異なります。

今回は総合科学入門講座の説明だった。正しく考えるということが根拠や理由を示して主張する、ということや、大学の授業は知識が身につくにつれて興味が移り変わっていくものということ、断片的な知識である雑学ではダメで、体系的な知恵を身につける必要があるということなど、今までの学び方と全く違うということを実感する授業だった。しかし雑学はあまり良くないと言うのが何故なのか分からなかったので Wikipedia で調べて見たところ、雑学はそれぞれの知識の関連性が薄く系統立っていないと、学問的ではないと書いてあった。これを読んで大学では雑学は不適切であることを理解出来た。復習の機会があることでこのように先生に言われただけでは理解出来なかったことを調べることができたので、今後もこれを使って色々な知識を身につける力を付けていきたい。

コメント [y47]: 書いてあることを読む限り、私が授業で述べたことと同じように見えますが、どうして授業で述べたことには納得できず、ウィキには納得できたのでしょうか。そのへんのところをもう少し具体的に書いてください。

今回の講義で、主に「正しく考える」ということの本意に触れた。ある分野に関する、ある部分だけの知は「知識」という名で自分達の頭に入り、それは本当の「知恵」ではないという。ある分野の中のすべての本質や知識を身につけたときに、初めて「知恵」を修得したといえる。もちろんその時同時に、その「分野の専門家」になることができる。

よく子供が「どうして・・・なのか。」というような疑問を親に投げかける姿を見る。親がその疑問に答えたとしても、またその子供は「どうして・・・なのか。」と、最初の疑問の答えに対して新しい疑問を投げかける。この子供の行動は明らかに「知識体系」のために連鎖した質問を投げかけていると見て取れる。今回の講義でその事が思い起こされた。ある知識を手に入れた時、人はまた新しい疑問を浮かべるものである。例えば「どうして〇〇は赤い色をしているのだろうか・・・」なるほど、このような効果があるからなのか。であれば、誰がこのようなことを考え出したのか・・・」というように。「知りたい」とい

コメント [y48]: 子どもには知識がないから、目にするもの耳にするものすべてにとりあえず「なんで？」と聞いているだけではないですか？

う意欲が連鎖していき、最終的に得た知識達が体系化される。私達はこれまでの学校教育の中で、わずかではあるが体系化した知識を複数頭の中に詰め込んできたように思える。ただ、それらがまだ「知恵」まで届いていない。これから私達は、自ら学びたい学問を大学で見つけ、その学問に関する「既存の知識」に「新しい知識」を加えていくことで、「知恵」を自ら作り出していくべきではないだろうか。将来私達が、常に変化し続ける社会に対応できるようにするためである。

コメント [y49]: 授業では、人として主権者として生きていくために必要な力だ、と述べました。

この授業の目的は多面的理解などの総合科学的思考=正しく考える力を手に入れることだ。そのため調べるごとに興味を持ちどころを変え、知恵にすることが大事だ。「知恵ある者」になるために客観的な根拠のある論理的な主張をいう体系的な練習をしていくべきだ。

私が目指している臨床心理士にとっては、多面的理解とは誰もが持たなければならない理解だ。臨床心理士について調べていた時に、臨床心理士は多面的かつ客観的な思考を持たなければいけないと書かれていたから。

総合科学部で学ぶ総合科学的思考とは論理的に多面的に正しく考えることであり、客観的な理由や根拠を示し主張することである。そのためには調べ、知り、書き書き直す繰り返しであり、思いや感想を述べたり、事実をでっちあげることではない。

学問的に価値のある興味が意味ある興味であり、興味から調査をし、知識がつくと興味を持ちどころが変わるため、そこからまた調査をし、知識が体系化して知恵になり、「問い」の「価値」がわかるような自身の変化につながる。

断片的な知識をいくら集めても雑学であり、大学では自分の「知識の体系」を大きく育て「知識あるもの」になるために体系的な練習が必要である。

今回の授業では、この総合科学入門講座を含めた大学入門講座シリーズは論理的思考力、多面的理解を養成する大切な場であり、最終的には『『知恵』のある人』となるための練習の場であることが分かった。話の途中で、『『知恵』のある人』となるためには雑学を知っているだけではいけないということを知った。ではなぜ雑学等を広く、浅く知っているだけではいけないのだろうか。今回の授業の講師である山口裕之講師によれば、「知恵」を体系化することで今までの興味、関心や問いの「価値」がわかるからだという。浅く、広く知るだけでは「知恵」を大きく体系化することにはつながらないのだ。しかし、雑学だけ

知っていたとしても人は生きていくことができると私は考える。なぜ「価値」を知ることが重要なのだろうか。欲求の観点から見れば、その答えはマズローの欲求階層説に見ることができる。「人間の欲求は5段階のピラミッドのように構成されていて、低階層の欲求が満たされると、より高次の欲求を欲するとされる。」(motivation-up.com モチベーション理論 マズローの欲求5段階説より抜粋)なので、この考え方に当てはめて考えてみると、生きていくこと=生理的欲求などの低次元の欲求であり、知識を体系化し問いなどの「価値」を知り、『知恵』のある人となること=高次元の欲求であることがわかる。私たちの生活を考えてみれば、食べ物を手に入れられるのかどうかなどの心配はしない。つまり、低次元の欲求は満たされているのだ。なので「価値」を知ることによって自己実現などの高次元の欲求を満たすことができるため重要であるのだ。最後に、私はこの講座のシリーズでしっかりと、『知恵』のある人となる練習をしたいと思う。

今回の授業は、論理的思考力や多面的理解について解説したものだ。これらは、感情などの主観的要素を廃し、客観的な根拠や理由を元に、物事を考えることで身につくようだ。また、大学では自分の興味関心に即して学ぶ。生徒が学問的に価値のある興味関心を持ち、調査することで知識が付き、興味が変わる。さらに調査して知識を体系化させ、「知恵」となし、「知恵ある者」を目指さなければならないそうだ。

どの程度の知恵者になるかは、自分の中にどれくらい大きな知識の体系を作り上げることができるかによって決まるそうだ。

質問

論理的思考力や多面的理解力を鍛えるには、現実の事例を例にとりて様々な角度から考察するという方法は効果的でしょうか？

例 アメリカで毎年銃による集団殺人事件が起きているにもかかわらず、どうして銃規制が進まないのか？

政治的な視点 銃規制を妨害するために政治家に献金する圧力団体の存在

歴史的な視点 アメリカはイギリスから独立するために人々が銃を持って戦い、独立を勝ち取った。そのため、「自分の身は銃で守る」考え方がある。

経済的な視点 アメリカにおいて銃産業は巨大な市場を持ち、もし厳しい規制が進むと、そこで働く人々が大量解雇され、失業者が多くなる

(全て池上彰氏のテレビ内の発言から引用)

何故この方法が有効なのか？

自分なりの根拠

論理的思考力や多面的理解力を鍛えるといっても、あまりにも抽象的でとっつきにくい。現実の事例を挙げ、経済、政治など複数の観点から考察することで、これらを鍛えること

ができると思った。

質問した理由

論理的思考力や多面的理解力を鍛える方法^①を具体的に教えて欲しかったから。

コメント [y50]: 毎回の授業に対して、考えたことを客観的な根拠をつけて主張する練習をしましょう。

今回の授業は、大学での学びとは学問的に価値のある興味関心の事柄をよく調べ、知識を体系化させ価値を判断する力を養い知恵をつけていくことであり、そのために文献などから客観的な根拠・理由を示すことが大切であるということがわかりました。今回意見はありません。

総合科学で大事にするものは、論理的思考力の養成と物事の多面的理解である。自分なりの意見を考え、客観的な根拠や理由を示して主張しなければならない。また、総合科学では、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しである。自分の興味関心に即して考えなければいけないが、個人的な興味関心ではない。興味をきっかけにして調査し興味^②が知識になり、知識を体系化することで「知恵」になる。そうして知ることが自分自身の変化につながっていく。知識を体系化することで、自分の興味関心が価値になる。自分の中で、知識の体系が大きいと自分の知恵が多くなる。そのために自分の知識を体系化できるかが大事になっていく。私は、知識を体系化し興味関心を知恵にするためには、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しの中で調べることが最も重要になってくると考える。いろいろな角度から調べることで、根拠や理由を示して主張するときに役に立ち、また知識の体系化につながっていくからだ。知恵をたくさん増やしていき「知恵ある者」になり、多面的なもの^③の見方ができるようになっていくようにしなければならない。

総合科学入門講座を学ぶ目的は「論理的思考力の養成」と「物事の多面的理解」である。今回の授業ではまず、正しく考えることについて学んだ。「正しく考える」とは、文献やデータを使用し客観的な根拠や理由を示すことと、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しであると学んだ。次に、興味と知識について学んだ。高校までの学びとは違い、大学では自分が興味を持ったことを調査し知識がつくことで興味の持ち所が変わり、さらに調査を進めることで知識が体系化し、「知恵」がつく。しかしながら、個人的興味関心ではなく学問的に価値のある興味関心でなければならない。また、自分の中にどれくらい大きな知識体系を作り上げることができるかによってどれくらい「知恵ある者」かが決まってくる

るということも学んだ。

私がこの授業を受けて一番印象に残ったことは、高校の時の作文とは違い、大学では自分の考えではなく自分自身で調べ考えることで説得力のある文章を書かなければならないということである。そのための能力を養うためにこの授業で毎回行う授業コメントを活用していきたい。

この総合科学入門講座は、論理的思考・多面的理解といった「正しく考える」力を身につけるためにある。「正しく考える」とは、文献やデータなど客観的な根拠や理由を示して主張することであり、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しだ。大学での学びはこれまでの単なる「調べ学習」とは異なり、調査を通じて変化した興味に従い、さらに調査する。そのようにするうちに知識が体系化していく。自分の持つ知識が体系化することで、興味関心や問いの価値がわかるようになり、自分の中にどれほど大きな知識の体系を作ることができるかによって、どれほど「知恵ある者」かが決まってくる。

これから大学で学んでいく上で常に意識しておきたいのは、これまでの「調べ学習」とは異なるという点だ。これまでは興味ある内容について調べ、報告するだけでよかった。しかし大学では自分の興味あるものについて学ぶことも、調べることも、知恵をつけることも自分次第であり、4年間の学びをどういったものにするかも自分次第である。大きな知識体系をもつ「知恵ある者」となって社会に出て行けるように、毎回の授業を通じて論理的思考力の養成に努めたい。

1

- ・大学入門講座では、物事に対して、客観的な根拠や理論を用いて、多面的に考えられるようになること、また、それらによって物事を妥当な価値判断ができるようになる目的。そのためには、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返す訓練を続けることが大切。
- ・大学で取り扱う問題には答えがないことがあるが、そういったものに対しても観念的に考え、勝手に答えを出そうとするのではなく、誰が見ても正しいと納得できるような答えを出すことが大切。
- ・感情的な根拠はだめ。
- ・知識というのは体系的なもので、支えあうことで成り立っている。そのため、欠けている知識の部分を補おうとしたり、齟齬を解決しようとするのは学問的に問う価値のあるものである。
- ・知識を持つ→興味が変わる→知識を持つ・・・を繰り返していくうちにそれが知恵とな

コメント [y51]: 箇条書きでなく、文章の形で書きましょう。

り、それが自分の成長へとつながる。

2

意見

学問において感情論は全く通じないものなんだと**思った**。なぜなら人間の感情は全く同じものはないし、何かに対して感じることに正解はないため、ただでさえ出にくい答えがさらに出にくくなってしまふからだ。私は、知識における感情論とは、そこにある客観的に正しいものをめっちゃくちゃにしてしまうものだ**と考えた**。

質問

・感想を書いてはいけないとおっしゃっていましたが、**感想と意見**の違いは何ですか？
(意見を書こうとしても感想のように見えてしまう**ら**から)

3

感想は何かを受けて自分はこう考えた**と述べるものだ**と**思う****。意見も何かを受けて自分はこう考えると述べる**ものだと**思う****。物事に対して感想を言うときも意見を言うときも、対象物に対して思いを巡らせることによってできること**だと**思う****。だとしたら感想の語尾を「~と思う。」を「~と考える。」にすれば感想も意見に成り得るし、逆にすれば逆に成り得ると**考えるから**だ。また、感想という字にも意見という字にも心という文字がついているからだ。**

4

感想・・・物事について、心に感じたことや思ったこと、所感。『デジタル大辞泉』より引用

意見・・・ある問題に対する主張・考え。心に思うところ。『デジタル大辞泉』より引用

上の意味から考えると、感想は物事に対して感じたこととどまっているが、意見は物事に対して感じたところにプラスして、それに対して自分は**どう考えるか**を述べるという違いがある**と**考えた。

【要点】

「調べ→知り→書き→書き直し」を繰り返す、論理的思考力・多面的理解力を養い、客観的な根拠や理由を示し説得力のある主張ができるようにする。

今まで学んできた知識、さらに大学では「興味→調査」を繰り返す知識を得て、それを組み合わせ体系化させていき知恵にしていく。「興味→調査」を繰り返すうちに知識の持ちどころが変わり、自分も変化していく。

【意見】

私も「興味→調査」を繰り返すうちに知識の持ちどころが変わり、興味・関心が初めに抱いていたものと変わっていく**と**考える。なぜなら、私も高校時代に理系科目から文系科目に

コメント [y52]: 自分が感じたことが「感想」。客観的な根拠や理由を示しつつ述べるのが「意見」。

コメント [y53]: 「~思う。なぜなら~と考えるからだ」という書き方では、あなたの頭の中から出ていません。

興味に移った経験があるからだ。

ベネッセ教育総合研究所が大学 1~4 年生を対象に行ったインターネット調査によると、「学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい」と回答したのは 52%、と結果が出ている(ベネッセ教育総合研究所「第三回大学生の学習・生活実態調査報告書ダイジェスト版 [2016 年]」, https://berd.benesse.jp/up_images/research/3_daigaku-gakushu-seikatsu_04.pdf, 2018 年 4 月 15 日アクセス)。大学で学んでいく過程で研究したいことを決めたい人が半数いることが分かる。日本の大学は一般教養で幅広い科目を学生に学ばすが、そこで興味・関心が自ら所属する専攻と異なる他の分野に移ったとしても、それを専門的に学ぶのは難しい。徳島大学の編入の枠は徳島大学では看護学専攻 7 人、歯学部歯学科 3 人、理工学部機械学科コース 8 人、応用科学コース電気電子システムコース若干名、生物資源産業学部 2 人となっている。さらに、編入できたとしても前の大学で履修してきた単位が認められずもう一度履修しなければならないことがあるため、編入に一步踏み出すことができない理由の一つだと考える。

先生も授業で述べられていた、物事を多面的に見ることができなくなっているのは、上記で述べたように、選択した学部から興味を持った分野に進むことの難しい環境が影響しているのではないかと考える。

自由に選ばられるように大学は変わっていくべきであると考えます。

今回の授業では、大学入門シリーズで学ぶこと、身に付けることについて学んだ。

授業の目的は論理的思考力、多面的理解をすること、つまり「正しく考える力」を身に付けることである。主張をする際に客観的な根拠や理由を示すこと、自分で調べ、知り、書き、書き直しを繰り返すことで正しく考えることができるようになる。

大学で学ぶときには個人的な興味関心でなにかを調べて終わるのではなく、学問的に価値のある興味関心に即して学ばなくてはならない。あるものに興味を持ち、調べて知識がつくことで興味を持ち所が変わり、さらに調査することで自らの知識が体系化する。そうすれば興味関心や問いの価値がわかるようになり、また自らも「知恵ある者」になることができる。

答えのない問題には勝手に正解をでっち上げるのではなく、客観的に根拠ある、だれもが納得できるような解答を作り出すことが大切である。

以上のことが今回の授業の主な内容であった。

思考力や理解する力は大学生活を過ごす上で必ず身に付けたいものであるが、2007 年に東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センターが行った全国大学生調査で集計された結果、幅広い知識、ものの見方の自分の実力は「十分・ある程度十分」と答えた学

コメント [y54]: 医学部や工学部などは、専門職を養成することが主要な機能です。ここでは一つの技能を集中的に練習することが求められます。幅広い文学の知識はあるけど腕の悪い医者にはかかりたくないでしょう？

生は 35.6%だったのに対し、「不十分・あまり十分でない」と答えた学生は 61.4%と、大学で授業として経験したが実力がつかなかったと感じている学生が多いという結果になった(大学経営・政策研究センター「全国大学生調査(第一次~第三次調査 合計) 学部系統別 基礎 集 計 表 (2008/01/21)」, http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/gakubukei2008_01.pdf, 2018年4月13日アクセス)。

このような現状があるなか、何度も反復練習を積み、知識の体系を大きくし、実力が「十分・ある程度十分」といえるように力を付けるためには自ら向上心を持つことが大切だと思

今回の授業の要点は2つあり、1つは論理的な思考を養い、物事を多面的に理解し正しく考える力を養うことで、もう1つは、学問的に価値のある興味関心を持つことである。

正しく考える力を養うことは重要だ。なぜなら、今の時代、インターネットやテレビなどに無数の情報が点在しているからだ。これからの日本を担っていく存在として、正しい情報の取捨選択を行い、物事を客観的な根拠や理由を示して主張できる能力は必須である。だから正しく考える力は重要だと言える。

総合科学入門講座では、正しく考える力を身につけることを目標としている。

正しく考える力とは、論理的思考力や物事を多面的に理解する力のことである。文献やデータなどの客観的な根拠や理由を示して主張することで、正しく考えることが可能になる。また、正しく考える力を習得する為に、調べる→知る→書く→書き直す、といったルーティンワークを繰り返す必要がある。

そして、大学では自分の興味関心に即して学び、正解のない問題に自分で解答を与える。しかし、個人的な興味関心に終止したり、自分で勝手に解答をでっちあげたりしてはならない。学問的に価値のある物事に興味関心を持ち、誰もが納得するような説得力のある解答を作り上げることが求められる。

さらに、大学の調べ学習は、興味→調査→報告で終わっていた高校までの調べ学習とは異なる。興味をきっかけとして、調査を行い、新たな知識を得ることで、興味の持ち所が変わる。すると、新たな興味から再び調査を行い、知識が増え、知識が体系化し、それが「知恵」となっていく。知るということが自分自身の変化につながるのである。ただし、断片的な知識をいくら多く集めようとも、それは「雑学」に過ぎない。自分の中にある「知識の体系」を可能な限り大きく育て、「知恵ある者」を目指していかなければならない。

「正しく考える力」は、社会に出た時、大いに役立つと、私は考える。社会に出ると、高いコミュニケーション能力が必ず必要とされる。しかし、どんなに上手に喋ることができたとしても、感情だけでは万人の心を動かすことは不可能である。また、感情だけで物事を決めてしまっただけでは、強者の言い分が通ってしまうだろう。そのような理不尽を未然に防ぐためにも、論理的思考力と多面的理解力を習得する必要がある。私の高校までの生活では、論理的に考えたり、物事を様々な角度から見たりする機会が少なかったように思われる。だからこそ、これからの大学生活で、個人的な興味関心以外の物事にも目を向け、豊富な知識を我が物にし、「知恵ある者」として総合科学的思考ができるように訓練していかなければならない。

今回の授業では、「興味関心と学びの関連性」について、「興味から知恵までへの移行」、そして、「意味のある興味関心」について学びました。

まず「興味関心と学びの関連性」については、高校生までの学び方と大学生からの学び方の違いについて学びました。高校生までは、受験に合格するという目標のために、自分の意志ではなく受動的に勉強をしていましたが、大学生からは自分の興味関心のあることを能動的に勉強するということを学びました。しかし、ただ興味関心のあることだけに着手してしまっただけではいけないということも知りました。なので、幅広くどの分野の知識も取り入れることが重要になってくるのだなと**思いました**。

「興味から知恵までへの移行」については、興味が自分自身の「学びたい。」という意欲につながることを学びました。興味を持つだけでなく、興味を持ちそれを知識をつけることに近づけることができれば自分自身の変化に繋げることができることも学びました。知恵をつけるためには、まず興味関心を持つことが重要になってくると**思いました**。

最後に「意味のある興味関心」については、興味関心はどの様なものでも良いのではなく、学問的に価値のあるものでなければならないということを学びました。有名な学者も学問的に意味のある興味関心の中から、自ら選んで研究しているということを知り、「知恵あるもの」になるには、自分で正しい取捨選択をすることが肝心だと**思いました**。

そして、私は今回の授業を受けて「なぜ**高校までの学習では興味関心が関わっていないのか**」という疑問を持ちました。理由は今回教えて下さった様に、知恵を体身に着けるには最初に興味関心を持つことが肝心であり、持っているだけでなくそれを調査し、知識にすることが大切であるということを知り、小中高生の学習の中にも取り入れると勉強に対する意欲が増し、成績も上がるのではないかと考えたからです。

自分なりの解答としては、「一人一人の興味関心に合わせて授業を進めていては、いくら時間があっても足りないから。」です。根拠としては、高校までは将来やりたい事または叶えたい事がバラバラな生徒が一つの教室に集められていますが、大学はそれぞれの将来に

コメント [y55]: この30年間、日本の教育行政では「知識偏重」から「興味関心の重視」へという方針が立てられています。にもかかわらず、それがうまくいっていない。そこで、「2020年からの入試改革」が計画されていますが、私の予想では、結局入試をしている以上、知識偏重は改善されないでしょう。詳しくは私の『「大学改革」という病』という本を読んでください。

応じて生徒が各学部に分かれており、個人の興味関心も似ているからです。

1、授業まとめ

(総合的思考力・多面的理解)=正しく考える力の養成のために

- ・客観的な根拠や理由(文献やデータ)を示して主張する
- ・調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返す

興味関心と学び

正解のない問への解答のためには

- ・個人的な興味関心に終始せず、勝手に解答をつくらない

興味をきっかけとした学び

<興味→調査→知識→興味の変化→さらなる調査→知識の体系化→知恵>というサイクル
知ることによって自分自身の変化につながり、これは良いサイクルとなる

意味のある興味関心=学問的に意味のある興味関心

- ・知識の体系化→知識不足を知る→興味関心の価値がわかる
- ・知識はそれ自身としてお互いに支えあう体系である
- ・知識体系の大きさ⇔知恵のある者

2、意見・質問

知識の体系化のためには、様々な知識を得、興味関心を広げ、結び付けることが必要だ

3、根拠

まず、自分の興味関心に沿った知識を収集し、それらを結び付ける。そうすることで、自分の知識不足に気づき、新たに知識を求めて調査し、知識を体系化することができる。この良いサイクルによって知恵を得られる。

今回の授業で総合科学的思考が、論理的思考力と多面的理解が合わさったものであり、正しく考える力である事が分かった。その中でも特に重要な点は、大学生活の中で、自分が興味のある学問的に価値あるものについての調査を繰り返すことで、知識の体系化をし、判断する力である知恵をどれだけ大きくすることができるかという点だった。

SHI 道場では、大学で学ぶ心構え・履修手続き・友達作り・論理的思考力の養成。プラ
ス総合科学入門では、物事の多面的理解する力を養成する。

論理的思考力・多面的理解とは物事を正しく考える力の事であり正しく考える力とは、

コメント [y56]: 箇条書きでなく文章の形で書きましょう。

具体的には、自身で文献やデータなどを調べたり作ったりする時などに客観的根拠や理由を示して主張すること。更には、調べたり作ったりしたものを書き直したりすることを繰り返すこと。

自分自身としては、今までデータを作ったりする時には、自分の個人的な意見を述べていたので、客観的根拠の付け方をこれからの SHI 道場で学んでいきたい。

この講座では、正しく考える力を身につけることについて学んだ。正しく考えるために大事な事は、文献やデータなどの客観的な理由を示すことである。自身で考えついた範囲のものだけでは感想になってしまう事になるのでしてはいけない。また、正しく考えるためには知識、知恵を深めていくことが大事だ。大きな知恵の体系を作っていく事が求められる。得ていく知識も狭く断片的な雑学のようなものではなく、幅広く深めていく必要がある。また、自分の興味だけで調べていくのではなく、学問的に価値のあるものを調べていくべきでなければならない。

疑問に思ったことがある。自分が資料やデータを集め、論理的な主張をしたとしても、反対意見や、それが正しいと思わない人達にはそれが **でっちあげであるように感じる** 場合があると思われる。その場合はどうなのだろうか。この質問の意図は、万人は決まった答えがない限り同じ考えや答えに辿り着くことがないからだ。このような場合、その主張は **でっちあげになるのか** 1 つの主張になるのか気になったため質問させていただくことにした。

コメント [y57]: 資料やデータの客観性を納得してもらうように説明するしかないですね。

自分は正しく考えるということあまり深く考えたことがなかったが、この講義を通して正しく考えるということは自分だけの知識や主観ではなく、文献やデータを参考にして客観的な根拠や理由を示して主張することや、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しであるということが分かった。大学やこれから生きていく中で、正解のない問題に、自分で解答を作っていくといけませんが、個人的な興味関心に終始してはいけないということ特に客観的に考察していくことが大切であると理解することが出来た。自分は知識は断片的なものであれ、多く持っていた方が **「知恵ある者」** だと思っていたが、断片的なものばかり集めてもただの「**雑学**」であり、知識としての体系を可能な限り大きく育てることが大事だと思い、勉強する時は常に念頭に置くようにしたい。これからレポートを書く機会がたくさん増えてくると思うので自分だけの見解だけでなく、その背景や論理的証拠を示して説得力があるような文章を書くように心がけるようにしたいです。

知識を体系化し、論理的思考力と多面的理解力を高めることが必要である、というのが授業の内容である。

人はまず感情で物事を考える。そのため、自分が好意を持っている人がこう言っていたからこれは正しい、自分が嫌いな人がこう言っていたけどそれは違う、という風に、相手のことを好きか嫌いかで物事の良し悪しを判断しがちである。論理的思考力や物事を多面的に理解する力を高めることができれば、感情だけで物事を判断することが減り、正しい知識かどうかを効率的に見極められるようになる。

私は、今回の授業の要点は「知識を体系化する」という点だと考えました。

これを理解し、実践できればその先に続く自分に足りない知識や興味・関心への着眼は大幅にやすくなると思ったからです。先生は、論理的思考力とは客観的に考える力だと言いました。個人的な興味や意見で考えるのは高校生までと言うのも大変納得できたし、私も普段から客観的な思考になるように心がけていました。しかし、私の場合はそれを重視しすぎるあまり、自分の意見や興味がなくなってしまうという問題点がありました。客観的に見て重要であると考えられると、それが自分の意見であったかのように思えてしまい、しかし最終的には本当に興味は無かったため行き詰まってしまう。

今回の授業を受けて、この問題に対して自分なりに考えた解決策は「自分の興味のあることを書き出してから客観的な意見を並べ、重なったところから追求していく」ということです。今回の授業の要点だと思った自分の知識を体系化するというのは、これを実行する時にも大変役に立つと考えます。

コメント [y58]: 『コピペと言われないレポートの書き方』に、「反対する内容の本を読もう」というところがあります。次回の授業で取り上げる予定です。

断片的な知識はたくさん持っていて意味が無い。それが他の知識と体系化して初めて意味を持つようになる。例えば、いちご、バス、シャツ、オレンジ、スカート、飛行機などの単語を覚える時、そのまま覚えるのではなく、フルーツ、乗り物、洋服などの概念に分けて覚えた方が早く覚えられ、知識が定着しやすい。また、知識を体系化させることによって、自分が何に興味関心を持っているかがわかりやすくなる。そうすることによって、自分が今後何を調査すべきかが明確に現れ、自分自身の成長に繋がっていくと考える。だから、知識は体系化させることが最も重要である。

総合化学科学入門講座では、論理的思考力と多面的理解を養成する。

正しく考える=客観的根拠・理由を示して主張

興味→調査→知識→興味の変化→再調査→知識の体系化

合理的、論理的に解決するために客観的に、妄想や信念を挟まず物事を考えなければいけないことが理解できた。しかし、妄想とまではいかずとも、当事者の立場に立って考えてみる想像力は必要ではないのか、疑問に思った。当事者の声を聴いた文献や資料があるのだろうか。

コメント [y59]: もちろんありますよ。

総合科学入門講座は、論理的思考力、多面的理解という正しく考える力を養う場である。

ここでいう正しく考える力とは、個人的興味関心とは違い、客観的な根拠や理由を示すことであり、調べ、知り、書き、書き直すという作業を繰り返すことでもある。

学問的に価値ある興味から調査によって知識を得て、その知識を繋ぎ合わせて知恵へと昇華していく力を養うことがここでは求められる。

私はこの総合科学入門講座で正しく考える力を確実に養わなければならない。

なぜなら、私はスポーツという個人的興味関心から総合科学部を選び、学びを深めようと考えていたため、このままではただの個人的な興味関心で終わってしまう恐れがあるのだ。私の興味関心を個人的なものとしなないためにも、社会に山積している課題を発見、調査し、客観的根拠による解決策を社会へ還元していくことで、真に知恵を身につけていかなければならない。

コメント [y60]: それを出発点として知識が増えていけば、おのずと「学問的な興味関心」というものがなんなのか、わかってきます。

今回の授業の要点は、興味を個人的なもので終わらせないということです。私は個人的な興味関心で終わらせないということは自分の興味を知恵にするという点で非常に重要なことだと考えます。その根拠として実際に今回の授業で聞いた「興味から知識へ、知識から知恵へ」という項目で興味から調査へ、調査から興味の変化へ、さらに調査をすることにより「知恵」を得るということが書かれていました。このことから個人的なもので興味関心を終わらせてしまえば調査をすることがなく、「知恵」を得ることができなくなることがわかるので「知恵」を得るためには興味を個人的なもので終わらせずに調査をして興味を「知恵」にすることが必要であると考えます。

「知恵ある者」になる重要性を学びました。興味から知識へ、知識から知恵へという流れの中で、今までは意識していなかった自分自身の変化につながり、社会に貢献できる人材が作られることが分かりました。

機械的な作業や知的労働なども担うようになってきているAIやロボットが発達している今の時代、私たちは人間にしかできないことを見つけていかなければなりません。その人間にしかできないこととして、コミュニケーション力、創造力、発想力などがあげられます。その中で身につけるあらゆる知識を整理しながら客観的な理解をもち、知識を可能な限り体系化することは、大きな知恵につながり、社会の発展のためにも大切だと思われます。常に問題意識をもち、その問題に対して人間特有の能力と努力で知恵を生み出しながら、自由に活用応用することが必要になります。

これからの時代で不可欠な知恵の重要性を深々と考えさせられました。

今回の授業では、大学の学びは高校までの調べ学習とは違い、興味をきっかけとして、調査から得た自分の知識を体系化し、知ることが自分の変化になるということを学びました。また、そこでの興味は個人的な興味ではなく、学問的に価値のある興味でなければならないことも学びました。

これらのことはとても重要だと思うので、これからの授業もしっかり受けて自分の知恵にしていきたいと思えます。

授業の要点は大きく2つある。1つめは、論理的思考力・物事の多面的理解を総合化学入門講座を通し身に付け、身につけたそれらの能力や文献、データなどを用いて客観的な根拠や理由を示し意見を主張できるようになることである。そのためには調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しが必要である。次に、学問的に価値のある興味・関心について学習・調査し、知識をどんどん得ることで知識が体系化し、興味・関心や問いの「価値」がわかるようになり、より多くのことを知ろうとする意欲が湧いてくることである。

授業の中で言っていた大きな知識の体系というのは、ある1つの知識だけでは「点」であるが、様々な知識を身につけることで一見関連性のなさそうな事物の間に意外な共通点が見つかり「点」と「点」が繋がって「線」になり大きな知識の体系が作り出されることだと私は考えた。なぜなら私は高校時代に勉強と部活動という異なる活動において、部活動で勝てないとき、スランプに陥ったときなどに実践していた対処法が、勉強において模擬試験の成績が伸び悩んでいるときにも活用できたことで、異なるもの間にも意外な共通点があることを発見したからである。そして、「知恵」ある者というのは、知識の体系を

コメント [y61]: 私は、人間にはできるがAIに決してできないことは、「幸せに生きること」だと考えています。この点についてはここではこれ以上述べませんが、

コメント [y62]: 具体的にどのようなことを考えたのか、書いてください。

コメント [y63]: それは良いことに気づきましたね。

大きくしていくことでさらなる知識を求めて意欲的に学び、様々な物事について「知ること」に恵まれる」このような人が「知恵」ある者であるのではないだろうか。

以上が私の今回の授業に対する意見である。

総合科学入門講座について

・目的: 1 倫理的論理的な思考の養成。

2 物事の多面的理解。

・目的達成のために

1 客観的な根拠や理解を主張する。(文献、データを用いる)

2 調べ、知り、書き、書き直しの繰り返しを行う。

・自分の興味関心と学び

「正解のない問題に自分で回答を与える」

ただし、個人的な興味関心での終始はNG。

勝手に回答をでっちあげるのもNG。

「正解はない」ない場合でも「誤答」はある。

・興味から知識、知識から知恵

興味→調査→知識がつく→興味変化→さらに調査→知識が体系化→「知恵」

(知ることが自分自身の変化につながる)

・価値のある興味関心

1 学問的に価値があるもの。

2 自分の持つ知識が体系化することで、興味関心や問いの「価値」がわかる。

学者は学問的に意味のある興味関心の中から選んで研究をする。

私の興味関心は学問的に価値はあるのでしょうか？

私の興味関心は学問的に意味のあるものだと考える。

私の興味関心の中で一番と言えるのは日本刀の修復と保護である。その根拠として日本刀は歴史的に価値のあるものであり、歴史を知る大きな手掛かりになるからである。

例えば織田信長の刀であった薬研通吉光である。この刀は「享保名物帳」に元々畠山尾張守政長が所持していたとされている。そして、明応九年四月九日長政生涯の節にこの刀で三度腹を切ろうと突き立てたが通らず、鎌倉時代、短刀の名手と言われた栗田口吉光(藤四郎吉光)の作品であり名作と思って所持していたが何の利益もない道具であると、投げ捨てたとき傍に置いてあった鉄製の薬研を表裏二重に突き通したとされ、それから「栗田口吉光の短刀は切れ味は抜群だが主人の腹は切らない」と言い伝えられた。「畠山記」にも同じような記述がある。しかしそれが事実であったかどうかは現在知ることは不可能である。それは、この薬研通吉光は本能寺の変で消失してしまっている。(「關難間記」や「駿府記」

には1615年5月大坂落城後、河内の農民が拾い本阿弥又三郎が入手し金百両にて徳川家康に献上したとされたがどちらも共通して一尺九寸五分の大きさと記載されているが、同じく栗田口吉光の作品であり、「太閤御物刀絵図」に記されている「骨喰藤四郎」の一尺九寸五分半と似ていることもあり、骨喰と薬研を混同した可能性が高いとされている) 名刀幻想辞典より

このように、日本刀には謎も多く解き明かすことで持ち主についてもわかることが多く、多くの歴史的人物のもとを渡ってきた日本刀は歴史的価値も高いと考えるからである。

まず入門講座の目的は、正しく考える力をつけることだ。そのためには論理的思考力と物事の多面的理解が必要であり、主張は、主観的ではなく、文献やデータ等の客観的な根拠を示す必要がある。また、学問に対し個人的な興味関心に終始したり、説得力に欠けた解答に気をつける必要がある。学問は単なる「調べ学習」ではなく、興味からの調査を通じ、そこでの知識が体系化して「知恵」へと変化する学びが望ましい。大学では学生が可能な限り「知識の体系」を大きくし、「知恵ある者」へと変化することを望んでいる。

私は、この授業でふれた、高校までの「調べ学習」について、まず日本の教育で「調べ学習」のあり方を見直す必要があると考えた。本来「調べ学習」とは、何か課題や疑問に対してもっと知りたい、理解したいというときに、単に本やネットで調べて終わるものではなく、目的は学生が自分で調べ、新たに得た情報から、自分の考えを深めることにあるのではないかと。もし、高校生までの「調べ学習」がこの目的にかなったものならば、現在大学生で単に情報を集めただけのレポートなどはほとんどないだろう。ところが、現在、大学生のレポートで、単に調べたものをまとめただけのものがあると聞くように、これは、それまでの「調べ学習」が単に調べただけで終わっていたケースが多く、その習慣のまま大学生になった人が多いといえるのではないかと。

そうは言っても、調べるという行為自体は、より知識が定着しやすくなるという点から、完全になくすべきではないだろう。

それでは、高校までの「調べ学習」をどのように見直せばよいか。私は、まず、学校側が「調べ学習」の目的は何なのかについて、生徒にきちんと伝え、理解させるべきだと考える。「調べ学習」が、単にインターネットのサイトから、多くの情報を集めるだけの行為にとどまらず、そこから自分の考え方を新たに発展するということが大切だということを伝えておくと、生徒が何のために情報を集めるのかが分かり、より充実した「調べ学習」の時間を過ごすことができるだろう。

また、私は、「調べ学習」のこうした課題は、多くの情報を知ることができるインターネットが、若者にとって身近な存在になったことも原因の一つだと考える。今はネットで1つの事柄を検索すれば、一気に関連した記事にアクセスすることができ、子供がネットで

コメント [y64]: 「日本刀の修復と保護」と、信長の刀の話の関係がよく分かりませんでした。なお、残念ながら総合科学部では日本刀の修復技術を学ぶことのできるカリキュラムは用意されていません。

コメント [y65]: 高校生は大学受験の勉強をしなくてはならないというのが、調べ学習がおざなりになる根本的な理由でしょう。

調べるときに、1 検索する 2 ひとつのサイトから引用する 3 すぐ後に複数のサイトに飛んで書き写す、といったように、行為としてはたくさん調べられていても、すぐに複数の記事を調べたあげただけで、実際に自分の考えと照らし合わせて深めているかといえば微妙である。そこで、私は、「調べ学習」の本来の目的を、「活字に触れる機会づくり」にも置くとよいと考えた。ポイントは調べるときには時間を決めて本を媒体にして情報を得るようにすることだ。確かに本はネットと比べて調べる時間もかかる一方で、ネットはカラーが多く、イラストや見出しのある記事のように、情報が簡単にまとめられていることが多いため、調べものにはとても便利だ。しかし、文部科学省が、高い読書量が論理的思考、よい人間関係、意欲関心等のよい影響があることを発表しているように、本を媒体として文章に触れることは、ネットで簡単に調べるよりも、より子供の論理的な考え方を育てることに役に立つのではないか。学校側が本を徹底すれば、生徒が、始めは主体的ではなくても、学校が、子供が本に触れる良いきっかけになるうえに、たとえなかなか狙いの情報が得られなくても、それまで本にかけた過程や労力は、文章に触れた時間として無駄にはならないだろう。さらに、こうした動きが日本の「活字離れ」や「読書離れ」にも良い対策となるに違いない。

だから私は、この授業で触れた日本教育の「調べ学習」について、このように皆でそのあり方を見直すべきだと考える。

今日の授業で、感想や妄想で主張するのではなく、客観的な根拠や理由を示して主張することの大切さを学んだ。私も客観的に主張することは大切だと**思う**。なぜなら、人の数だけさまざまな考え方があるため、自分の感情を人に押し付けてはいけないし、客観的な思考と多面的思考を大切にしなければならないからだ。

今回の授業は総合科学の導入として、山口先生から「知恵あるものとは、調べたことを自分の中に取り入れて、大きな知識の体系を形成していくもの」と教わりました。主観的な感情ではなく客観的な事実に基づいて論理的に考えることも重要であることを教わりました。これをうけて僕は、高校の学習過程に組み込んだほうが、大学に入ってより一層高度な教育を受けられるのではないかと**考えました**。

今日の授業で、多くの人に自分の考えを伝えるときは、感想を述べるのではなく、根拠

や理由を示して述べるのが大切だということを学んだ。

私も根拠や理由を示して述べるのが大切だと思った。なぜなら、感想は自分の思いであり、違う思いを持っている人に自分の考えだけを根拠もなく主張しても、その人を納得させることはできないからだ。

今回の授業の要点は「物事を客観的に見る力をつける(決して主観で考えない)」、「そのための根拠や理由を明確に提示、頭の中にあるものなど抽象的なものは用いない」、「大学では学術的に興味のあるものについて学ぶ、その課題は自ずと現れるものであり正解のないものも多い」というものであったと考えます。特に、「客観性」「論理性」といったものに重みを置いた講義であったと感じました。

それらの考えに対し私は「主観的な考え」でしか人間は物事をはかれないと常日頃感じています。

これは、私がまだ人間的に未熟であり自分のことやあらゆる出来事を客観的に捉える力が無いからだと思っていますが、やはり私が今後教授の目指す「客観的、論理的に物事を考えられる人間」に成長できたとしても「人間は主観的な考えを捨てることはできない」という考えは根本に残ると考えます。

どれだけ客観的に考えようとしても、物事を捉え、考えるのはどうあがいても自分自身であるため多少の主観、感情的な考えは必ず存在してしまうものだと考えるからです。

今現在このような意見を有する私ですが、教授の客観的な力や人材の育成についてのお考えは大変正しく、必要なものであると第一回目の講義を受け自分なりに強く感じました。

コメント [y66]: 「物事をはかる」とは具体的にどういうことでしょうか? 通常、物事をはかる(測定する)のは科学であって感情ではないですよ。もちろん、感情が重要な場面もありますが、この授業では正しく考え、他者と対話によって合意を形成するための力を学んでください。

コメント [y67]: 「～考える。なぜなら～と考えるからだ」という書き方では、あなたの「考え」から出ていません。

この授業の要点は、大学生の間に可能な限り巨大な知識の体系を作り上げ、知恵のある者になるのが大切だということである。私は、知識の体系化を行うことは重要だと考える。あるウェブサイトにも、一般的に体系化することで、多くの人が使えるようになり、また、人に教えやすくなる、とある。(4/15、マナラボ、<https://docoic.com/32144>)
よって、知識の体系化は重要だと考える。

正しく考えるということは、客観的な根拠や理由を示して主張することである。主観的だと説得力がなく、主張している人の権力の差でどっちが正しいのかが決まってしまうからである。だから、誰しもが納得するような回答をすることが大切である。

興味が湧くと、調べる。調べることで知識が付き、知識がつくと興味の持ち方が変わる。そうするとまた興味が湧き調べる。その繰り返しで知識が体系化する。知識は断片的では意味がなく、知識をつなげることで様々な場面で役に立つ。学びは興味をきっかけに広がるので、色々なことに興味を持つことが大切だとわかった。正しく考えることは、調べ、知り、書き、書き直すことが大切であることをこの授業で学び、書き直すという作業が、正しく考えることにとても大切な作業だということを知った。

今回の授業では、大学で学ぶにあたって取るべき姿勢や総合科学的な考え方について学んだ。抱いた興味関心をきっかけに調べ、知識をつけた上で新たに出てきた興味関心や問いをさらに調査する。物事を判断する力となる「知恵」を身に着けるために、私たちはこのような高校時までとは違った学びを重ねていかなければならない。「知恵ある者」になることは、学問の知識において優れているというだけでなく、社会生活においても同様であることが求められる。これは、物事についての知識が深いほどその有用性や危険性をあらかじめ理解しておくことができるからである。どう扱えば自らの生活に役に立つのか、逆にどう利用することで犯罪や事故など危険なことへつながるのかを判断することは、私たちがこの先大人として自分の責任を背負って生きていくうえで必要不可欠なことである。学問に携わる人間の一人であり、社会の一員であることを肝に銘じ、これまでの学習の仕方の一つ区切りをつけて新たな学習へと歩んでいかなければならない。

総合科学入門講座では、論理的思考力の養成と物事の多面的理解を目的としている。それらは、客観的な根拠や理由を示して主張することや、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しによって、「正しく考える」ということである。大学では学問的に価値のある興味関心に即して学び、正解のない問題に自分で誰もが納得できる解答を与えなければならない。興味の持ちどころが変わってくれば、さらに調査するようになり、断片的じゃない知識が体系化され、知恵へと変化する。知識の大きさの体系は知恵であり、「知恵ある者」とは妥当な価値判断ができる者である。私は、この考え方に納得だ。大学では自分から積極的に学ばなければならない。だから、自分の興味関心あるものについて積極的に学んでいけば、興味→調査→知識→知恵の流れは自然に生まれると考える。

【授業内容まとめ】

論理的思考・多面的理解とは正しく考える力であり、それは主観的であったり感情的であったりしてはならない。客観的な根拠や理由を、文献・データをもとに示して主張することが正しく考えるということである。

また、大学では自分の興味関心に即して学ぶ場であるが、その興味関心も学問的価値のあるものでなくてはならない。興味をきっかけに調査し、それにより知識が付き、興味のもちどころが変化し、さらに調査するという循環で知識を体系化して知恵とすることで自分自身の変化・成長を促す学びをすべきである。

【意見・質問】

どのようにして価値のある疑問・質問等を上手に考え出せばいいか

【意見の根拠・質問の理由】

興味関心のもととなるのは疑問であるように思い、それらは普段思いつくことはあっても中々学問的価値のあるようなものになってくれないから

【意見・質問に対する自分なりの解答】

疑問を抱く対象に関してもっと関連する知識を広く得ることでより深く理解し価値のある疑問を考え出せるかもしれない

コメント [y68]: 「試合でホームランを打つにはどうすればよいか」 答え：毎日の練習。
それと同じです。今できないことが突然できるようになる魔法の方法はありません。

今回の授業では、「正しく考える力」を身につけるには何が重要かを教わった。まず正しく考えるとは、何かを主張するにあたって文献やデータなどから客観的な根拠や理由を示すこと。そしてそれを行うには論理的思考力と多面的理解が必要で、個人的な興味関心や信念、感想などの主観を伴うものは説得力に欠け議論を展開するうえで役に立たない。

また調査する中で得た知識は断片的に記憶するのではなく、学びながら自身の興味を変化させそこへ新たな知識を積み重ねていくことで体系化された「知恵」にすることを目指す。知識が体系化することで問いの価値が分かるようになる。今後私たちは大学で自身の学問的価値のある興味について様々な知識を得てそれらを体系としての知恵にするための方法をこの授業で学ぶ。

私は今回の授業を聞いて先週まで行われていたオリエンテーションを思い出した。ある話の中で桃太郎を題材にした多面的理解についての一例が挙げられた。桃太郎側の視点から見れば正義の物語だが、鬼の子供から見れば決して正義とは言えないというものだった。このような考えは意識せずにはできない。物事を総合的に判断するには自分の知識の体系を広げることが重要だが、他人の立場や考えを正しく考えるには他人の知恵に多く触れるべきなのでそれができるような機会を多く設けていただきたいと考える。

今回の講義では、総合科学入門講座の目的について学んだ。それは、論理的思考力と物事を多面的に理解できる力を養うことである。学問的価値のある興味関心について研究し、自分の知識を体系化する。そして知識体系の拡大を図り、知恵ある者となることが求めら

れる。

私は興味関心が、個人的なものや学問的価値あるものとに区別されることを初めて知った。今まで私が抱いた興味関心は個人的なもので、その上調べたことを踏まえた自分の考えを持つことはなかった。だから、意見を求められた場合は返答に時間を要するだけでなく、論理的でないために相手を説得できない。視野を広げて論理的思考を身に着けるには、普段から練習する必要があるのだと気づいた。

今回の講義では、物事を正しく考える力を養うことが重要であるとわかった。これからの社会では、様々な視点から物事を見る力が重要になってくると考えられる。互いの意見を尊重しあい、社会の利益になるように努力することが私たちの役目だと思う。これから高齢化が進めば、働き手も減少していくため、私たちの力が必要だと考える。これからのこの講義の中でさらに精進したい。

テーマは「総合的な考え方」であり、内容は大きくいうと、大学での学びと意味のある興味関心についてであった。まず学問の成果は客観的であり、普遍的なものであることが大切。学ぶことは個人の興味関心に終始してはいけなくて、客観的な理由をもとに説得力のある答えをつくっていかなければならない。高校までの「調べ学習」の最初から最後まで興味が変わらない一方通行のようなものでなく、興味があることを調査し、そのことの知識が付き、興味の持ちどころが変わっていくことで、知識を体系化させていくことが大学で学ぶこと。そして、興味関心は学問的に価値のあるもの、つまり知識の体系を必然的に問うものでなければならない。お互いを支えあう体系である知識を作り上げることで「知恵」が生まれる。大学では、個人個人が知識の体系をより大きく育て、「知恵」をつけるために学ぶ場所だということであった。

4月13日の総合科学入門講座の導入のプリントでは、「正しく考える」ことは「思い」「信念」「感想」「妄想」、頭の中にあるものを取り出してくるのではないとされていて、要するに意見を言うときは、客観的な根拠や理由が必要だとなっている。そのことは、高校まで学んでいたこととは違ってくると思わせられた。高校までの教育では、おもに人権学習などで「感想」を書かされることが多かった。また小学校や中学校では、「道徳」の授業があったが、ここで「道徳」の意味を調べると、「人のふみ行うべき道。ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の総体。法律のような外面的強制力を伴うのではなく、個人の内面的な原理。」(デジタル版 広辞苑 第六版 岩波書店 (一部抜粋))と書かれている。個人の内面

的な原理=思い、信念だけとは言わないかもしれない。しかし、「個人の内面的な原理」には主観が含まれている。「内面」の意味を調べると、「心理・心情に関する面。」(デジタル版広辞苑 第六版 岩波書店)と書かれている。心理・心情には、主観が含まれている。そのため、高校までの「道徳」の授業で学んできたことは、主に自分のこと、主観的なことなので、大学での学びには「**いらない**」ということになる。このことから、感想などを提出する高校までの学習はおもに主観的なこと、自分の思いを周りに伝えることが重要であったが、それは高校までの学習であると改めて考えさせられた。

コメント [y69]: 要らないとは言っていない。これまで学んできたことを踏まえて、さらに大きな知識の体系を形作るようにしましょう。

今回の講義は論理的な思考力と、物事を多面的に理解する、正しく理解すること、正しく考えることが要点であると私は考えた。論理的な思考力があっても、一つの物事を多面的に理解する能力がなければ、自分の考えを相手に納得させることはできない。また、反対に物事を多面的に理解する能力が最初から備わっていたとしても論理的な思考力がなければやはり、自身が理解しただけであり、必要な情報や伝えなければならないことは誰にも伝わることはない。この二つは両方もたなければ、全ての事柄を本質的に理解することはできない。

私たちが生きる世界には自分以外にも非常に多くの人間が生きている。70億以上の人間が生きる世界で、すべての人間が同じ考えをもっているものは存在しないのではないだろうか。むしろ、「似ている考え」はあったとして、「100%」自身と同じ考えをもっている人はいないだろう。

これは歴史的な観点でも同じことがいえるのではないだろうか。私が高校生の頃、2度カンボジアを訪問した。そのカンボジアではポルポト政権の際、歴史に大きく刻まれることとなる大虐殺が行われた。現代の私たち、そしてその時代を生き、虐殺される側であった人間からすれば残虐極まりない、非道な行為だ。だが、ポルポト政権としてはそれは自分なりの正義に忠実に従った行動だ。多くの方面から考える力があれば、誰一人として虐殺されることはない未来もあったかもしれない。このように、一方から見れば残虐に見えるものも、他方から見れば**正義にもなりうる**のだ。

コメント [y70]: とはいえ、いかなる理由があっても虐殺が正当化されることはないでしょう。

物事を多面的に正しく理解し、論理的な思考力で正しく考えることは、争いを避けるなどといったものもあるだろうが、日常的な部分であれば人とのコミュニケーションにもとても大切なものだ。自分だけの主観だけでなく、様々な方面から捉え、考えることができれば、様々な考えをもつ人たちとかわかることができる。私も、総合科学部でこの総合科学的思考を身に付け、深める学びを行っていきたい。

総合科学部入門講座では論理的な思考や物事の多面的理解という正しく考える力を身につけることを目的としている。正しく考えるとは客観的な根拠や理由を示して主張し調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しである。自分の興味関心を最終的に知恵にすることが必要。ただ知識を集めるだけではただの雑学なので、自分も学問的に価値のある興味関心から大きな知識の体系を身につけ知恵のあるものになるため体系的な練習を繰り返したいと考えた。

今日の講義で大学の学びはただ単に主観的な興味や関心に即して解答を作成するのではなく、客観的な根拠や理由を用いて解答を作成することが必要であることが分かりました。客観的な解答を作成するためにも高校までに培ってきた知識を体系化し、問いの価値が分かるようになることが大切だと考えました。そのためにも大学では自分の意見を誰しもが納得できるように説明する力を身につけようと思います。

正しく考えるとは、自分の感想をただ述べるのではなく、根拠や理由を示して主張するために調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことである。その時に自分の解答を誰もが納得できるように心がける。

私は、心理学に興味があり、心理学につながるように学ぼうと思っていたが、それは間違いであり、興味を持ったことを調査し、知識を増やしていき、興味関心のある分野以外のことも知り、広げていくことが大事であることを学んだ。そして、その知識を体系化していくと自身の、物事の道理を判断し、適切に処理する能力である「知恵」が身につくことが分かった。また、メモを取る際には情報を取捨選択し、講義後に聞いた言葉を思い出せるようにし、あくまでも書くより聞くことが重要である。

今回の講義を通して個人的関心ではなく学問的関心への問いを行い、知識の体系を作り上げていくことで知識から知恵へと変化させることが大切だと学んだ。私もこの考えに賛成します。どのような学問を勉強するときもひとつひとつの知識では解決できないことがあるが、知識を増やして様々なアプローチをすることで解決できるからです。実際に収入の多い人ほど読書量が多いという結果から知識が多い人ほど社会で力が発揮されている傾向があることがわかりました。

これより読書により知識を多く得ている人ほど仕事において活躍する可能性が高いのだと私は考えます。

コメント [y71]: そうは言っていません。心理学への関心を出発点にして、心理学を学ぶことで、心理学の知識体系を身につけることも、大切なことです。

コメント [y72]: 根拠となるデータを示してください。

1、大学で学ぶにあたって、正しく考える力を身につける必要がある。その力は高校までの受け身の学習とは違うものであるために、教授からそのアドバイスをしてもらおう。大学では、断片的な知識ばかりを集めた雑学を学ぶのではなく、学問的に意味のある興味関心を自ら見つけ、確かな知識を身につけることが重要である。

2、私は小学生の頃から国際問題や外国に強い関心があります。しかし、今回の講義を聞いて、「私の興味関心のある話題が学問的に価値があるのかどうか」がわかりません。なぜなら、誰も自分の興味のある事を「これは学問的価値があるから、詳しく調べてみよう」とか「これは学問的価値がないから調べるのはやめよう」などとは考えないと思うからです。

またプリントに『知識の体系』を可能な限り大きく育て、『知識ある者』になってほしい」とありましたが、そのための体系的な練習とは具体的にどのようなことですか。これに対する私なりの解答は学問的価値のある話題に対して、多角的な観点から物事を判断していく作業が練習になるのではないかと、ということです。なぜなら、多角的視点で物事を見るということは、その問題だけでなく周りの状況を全て理解しておく必要があり、理解するという事は、必然的に知識が入っていないとできないことだからです。

コメント [y73]: もしもあなたがすでに国際政治学や経済学、その他の関連する専門知識を（少なくともある程度は）身につけているのであれば、現時点においてあなたの興味関心は「個人的なもの」です。

コメント [y74]: とりあえずは毎回の授業に対して客観的な根拠のある意見を述べる練習をしましょう。

今回は、大学と高校での学び方の違いや知識と知恵についての講義がありました。その中でも、知識の体系化ということが特に重要だと思いました。なぜなら、個々の知識を持っていても雑学にしかならないからです。持っている個々の知識を体系化して、初めて知恵になります。自分の中にある知識を体系化すれば、不足部分や齟齬を解消するために必然的に問うこととなります。だから、大学では知識を体系化することが重要なのです。

正しく考える力とは、倫理的論理的思考力と多面的理解のことであり、調べ、知り、書き、書き直すの繰り返すことが正しく考えることである。その際、主観的な意見だと強い方が勝ってしまう。また勝手に解答を作り上げてはいけない。学ぶものは、学問的に価値のあるものにすること。知識の体系を作り上げて知恵ある者になろう。

正しく考える力は生涯役に立つものである。グローバル化によりさらに多様化した社会で生きていく上で広い視野(多面的理解)は必須であり、主観的な主張だけでは戦争やテロにまで発展していく。実際にそのような事がおきており、解決する為にはこの思考を使って対話をはかるのが1つの近道である。その先頭に立っていかなければならないのは、最新の教育を受けた自分たちであるとわかった。第一線を退いたとしても、自分よがり自己

中心的な老人にはなりたくないのではやはり必要な能力だと思っ。大学は遊ぶ所という人もいるが、この講義で大学でどのように過ごすのかは自分次第なのだと思っ。

今回の総合科学部入門講座で、断片的な知識をいくら集めても「雑学」と学んだ。私もその意見に同意である。まず知識と知恵の違いを見る。知識とは知ること。また、ある事柄を知っている内容。知恵とは物事の道理を判断し処理していく心の働き。物事の筋道を立て、計画し、正しく処理する能力である。つまり、知識とはただ物事を知っているだけであり、知恵とは知識と経験が組み合わさったものなのである。

たとえば弁護士を考えてみる。弁護士は、いくら六法全書を丸暗記していたとしても、その知識を各々のケースに当てはめることができなければ意味がない。たくさん経験をし知識をうまく使うことで有能な弁護士として認められるのである。

英語でも同じことが言えるだろう。いくら英単語や英文法、発音を学んでいたとしても生かそうとしなければ意味がない。実際に英語を使う経験をする必要があるのである。

つまり、知識を集めるということは知恵につながる重要な行動であるが、知識だけでなく経験も積まなければ雑学なのである。

コメント [y75]: もちろん、一つの知識を活用するためには経験が必要です。ただ、ある一つの知識を活用することと、多面的な知識を体系化することは、別のことです。

今回の授業では、まず、「正しく考える」とは客観的な根拠や理由を示して主張する事だと学びました。その為には文献やデータなどをきちんと調べ、書き出したり調査したりして、自分の知恵とすることが重要だと。ここで1つ疑問に思っなのが、正しく考えるうえで、自分の思っは全く必要ないのかという事です。私が聞き落としてしまったのかも知れませんが、個人的には、客観的なデータを知り、主観に振り回されないなら、寧ろ自分の意見や思っもあっの方が、より多角的に物事を見る為の材料に出来るのではないかと考へます。自分の思っが最終的には誤答だっとしても、考へていく過程ではあっても良いのではないかと思っました。自分が日常生活の中で見た不便な物を改善したいというきっかけから、自分以外の人の役に立つ物が生まれたというニュースを見たことがあります。もちろん1つの物を作り出すためには客観的なデータをとり、調べたと思っます。でも、その中で材料のひとつとして、不便な社会をより良くしたいというその人の思っがあっと思っます。

コメント [y76]: 興味関心など、自分の「思っ」は、考へる動機にはなりますが、その考への正しさの根拠にはなりません。

また、興味関心は学問的に価値のあるものが良いという事も学びました。知識が体系化してくると興味関心に価値があるのか分かり、知恵のある者になれる。その為には体系的な練習が必要であると。断片的な知識をいくら集めても雑学でしかないと言うのもすごく納得がいきました。これからの大学生活を通して、たくさんの物を見て知り、自分の知識

とし、体系化させていくことで知恵のある者になっていきたいと**思います**。

感情や主観的なものではなく、学問的に価値あることに興味をもち社会的に根拠があるものを図書館やインターネット、実験を通して調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返し自分の主張をかためていく。

そして、知識がつくと興味が発展しさらに調査し知識が体系化していく。自分の中に知識の体系が大きく作り上げることで「知恵ある者」になっていく。

私は、この授業を通して確かに主観的な意見で終了することは違うことだと**感じた**が、主観的な意見が全て悪いことなのだろうか**と思った**。なぜなら、今までの学校教育で「自分の意見を大切にしよう」だとか、「**社会に出たら自分の主観的な意見を主張すべき**」だと**長年教え込まれた**からだ。

今回の講義では論理的思考力、興味関心について取り上げられていた。まず論理的思考力とは、感情的なものではなく客観的な根拠や理由に即した考えであり、その力を養うためには自分で調べる事の繰り返しが大変であるということを学んだ。次に興味関心については、個人の興味関心のみを調べるのではなく学問的に価値のある興味関心を幅広く調べる事が大切で、そこから学んだ知識を体系化することで興味の持ちどころが変わっていき、知恵のある人へと成長できるということ学んだ。私今回の講義の興味関心の話の主張に大いに賛成である。なぜなら、自分の興味のあることだけを調べたら物事の見方が一方的になると思ったからだ。これからの講義を聞いて多面的に理解できるようにしたい。

断片的な知識だけでは一つの方向からしか物事をとらえることができない。知識は一つ一つつながっており、体系の中にあるからこそ意味があるので、幅広い視野を持って学んでいかなければならない。また、個人的な興味関心からだけで学んでいくのではなく、学問的に問う価値がある興味関心から学んでいくことが大切である。

私は、学問的価値のある興味関心とは具体的にどのようなものなのかが疑問である。興味関心があることについてはほとんど調べていきたいと思うが、それは学問的に価値のあるものなのか**今の自分では判断しづらい**からである。私は、学問的に価値のある興味関心とは、授業で扱われるような内容のことかと推測する。理由は、授業で扱われる内容は学問的に問う価値のある事ばかりだからである。

コメント [y77]: もし本当にそのように長年教え込まれたのだとしたら、その教師は間違っています。主観のぶつかり合いになれば、社会は成り立たないからです。でも、おそらくですが、教師のメッセージをあなたが誤解したのではないかと推定します。

コメント [y78]: あなた自身の中に知識の体系が形作られてくれば、分かるようになります。

今回の授業では、正しく考えるとは客観的な根拠や理由を示して自分の意見を主張し、他人と違うところがあれば議論し、また自分で調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しが大切だと教わった。自分の主観ではなくあくまで客観的に考えることが正しく考えることにつながる。

では、正しく考える中で他人と議論するとき、どのような議論が良いのか。

そもそも議論とは何なのか。Weblio 辞書によると、議論とは「それぞれの考えを述べて論じあうこと。また、その内容。」とある(Weblio 辞書「議論とは-Wiktionary 日本語版(日本語カテゴリ)Weblio 辞書」<https://www.weblio.jp/content/議論>,2018/4/15 アクセス)。つまり、自分の考えだけではなく他人の考えも知ることが出来るのが議論の場である。そしてその相手の意見や根拠を聞くことで他人の知識を得ることが出来る。

そんなことを言ったって、議論に結論が出なければ意味がないと思う人もいるだろう。だが、先ほど引用したように、議論とは、「それぞれの考えを述べて論じあうこと。また、その内容。」なのである。決して、「それぞれの考えを述べて論じあい、結論を出すこと。」ではない。議論は、論じ合うことがその本質なのだ。

次に、どのような議論が良いのか。このような意見がある。「議論」とは、多様な価値観を共有する場所であり、相手の主張から自分の考えもしなかった気づきを得ることで、互いに刺激し合い、自身の意見を強固なものとして昇華させるものである。」(ぐるりみち。「ネット上での議論は本当に「無意味」なの? -ぐるりみち。」<http://blog.gururimichi.com/entry/2014/01/02/120422>,2018/4/15 アクセス)。相手から気づきを得ることで自分の意見は他人の視点も取り入れたものとなる。

このように、議論という言葉の意味通り、それぞれの考えを述べ、また相手の主張に刺激を受け、自分の考えをより良くするものこそが、良い議論なのではないだろうか。

この授業での要点を私なりにまとめてみる。まずわかったことは、何事も論理的に考えることが重要である。自分で調べて根拠や理由を示して主張することが、論理的思考力を身に付けることに繋がる。大学では自分の興味があることに対して学びを深めていくことができるが、その分徹底的に調査し、知識に繋げ、体系化することが大切である。

私は、今回の授業で大学で学ぶための基本を教わった気がする。自分の興味関心に即して学びを深めるためには、根拠もなしに自分で答えを作り上げてはいけなと思った。興味があるのなら尚更調べて説得力のある学びに繋げていきたい。正しい知識を身に付けることが、自分自身の知恵や強みになり、またその知識を発信することで説得力が出てくる

コメント [y79]: 「本質」というより、単に「定義」でしょう。

コメント [y80]: そういう議論「も」よい議論かもしれませんが、そういう議論「だけ」がよい議論とは限りません。「自分の考え」だけが良くなっても、相手の考えが愚かなままなら、良い議論ではないということもあるでしょう。

のだと思う。知識もないまま興味本位で学んでも、それは客観的に見ると意味あることには感じられない。自分の興味があることだからこそ、きちんと論理的に考えることができるようになりたいと思った。

まとめ

総合科学入門講座では客観的な根拠や理由を示して主張し、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことで「正しく考える」ことが身につく。また大学での学びは高校までの学びとは二つの点において異なる。知識を体系化する点と学問的に価値のある興味関心に即して学ぶ点である。知識を体系化するという事は、すなわち知識が知恵に変化するということであり、興味関心や問いの価値がわかるようになる。知識の体系の大きさはどのくらい知恵のある人物なのかということに直結する。

意見・質問

これからの四年間の学習は高校までとは違い特定の分野に特化したものであり、そういった意味で知識を体系化することは重要である。講義の中にあった「学問的に価値のある興味関心」というものがわかりづらかった。興味関心とは何らかの分野につながっているものなので、学問的な価値とは何を基準としているのか、また学問的に価値のない興味関心とはどういったものなのかを知りたい。

コメント [y81]: 具体的にどのようなことが分かったのか、にもかかわらずどのような点がどうして分からなかったのかを具体的に特定してくれないと、同じ授業をもう一回繰り返すことになります。

要点

総合的思考力とは正しく考えること

正しく考えることはだれが見ても納得できるように書くこと

そのために客観性が必要

大学は高校と違って学問的価値のあることにそって自分から学びを進めていく

自分から学びを深めていくのに知識の体系が必要

断片的な知識を集めた雑学にならないようにする

意見

総合化学科学的な考え方とは個人的な意見ではなく自分自身で学び説得力のある考え方をすることだ。このような考え方を会得するためにこの講座で知識の体系を身に付けたい。

1 学問的価値のある興味を繰り返し調査することで知識が体系化し、知恵となって自分の変

化につながる。

2 興味を調査しそこで終わるのではなく、さらに追求していくことが重要だと思う。

3 単に調査しただけでは、理解が浅いから。

大学では、正しく考える力が必要だ。

何か主張をしたい場合、客観的な根拠や理由が不可欠である。そしてそれに基づいて、調べ、知り、書き、書き直すことで力が養われる。

そうするためには、知識の体系化が必要である。

自分の個人的な興味関心に即し、自分で解答を考える独りよがりでは、正解がない問題でも「誤答」になる可能性が高い。学問的に価値のある興味関心を持つことが大切だ。

興味をきっかけにしての学びは、興味→調査→考えの変化→さらに調査→知識の体系化→知恵というように、知ることが自分自身の成長へとつながる。

自分の知識が体系化することで興味関心や問いの価値がわかる。また、それを大きくすることで知恵を多く持つものになるのだ。

このように、断片的な知識だけでは知恵は身につかない。分野に関わらず本を読み、それぞれのつながりを意識して、知識同士を繋げていきたい。

SIH 道場では論理的思考力の養成を、総合科学入門では論理的思考力の養成にくわえ物事の多面的理解を、課題発見ゼミナールでは総合科学入門で身につけるものの実践練習をする。

論理的思考力や多面的理解というのは正しく考える力のことで、正しく考えるとは一つは、文献やデータなど客観的な根拠や理由を示して主張するということ。

主観的なものは説得力がない。

二つ目は、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しということ。

思いや信念といったものでもなければ頭の中にあるものを取り出してくるわけではない。

さらに、大学では自分の興味関心に即して学びます、と言われるが、個人的な興味関心に終始するのはいけない。

では、どんな興味関心ならいいのか。学問的に価値のある興味関心ならいい。

加えて、正解のない問題に自分で解答を与えるとも言われるが、勝手に解答をでっち上げるのもいけない。

説得力のある解答とない解答があることに加えて、正解はない場合でも誤答はあるからである。

以上の点から、興味から知識へ、知識から知恵へすることが必要であると考え。
興味を持つということが最終的に自分自身の変化になると考えるからである。

今日の授業では総合科学入門講座の導入として、大学で学習していく上で必要な論理的思考力・多面的理解について学んだ。大学は高校と違い、興味をきっかけにして調査を行い、そこで得た知恵をきっかけにしてさらに調査を行うことで、学問に対する理解を深め、知識の体系を作りあげていくということが重視されている。

私が今日の授業で疑問に思ったことは、「学問的に価値のある興味関心」とは何かということだ。なぜこのような疑問を持ったかということ、「個人的な興味関心」と「学問的に価値のある興味関心」の違いを具体的に理解することが出来なかったからである。

Share Study というサイトによると、「学問が共通して持つ特徴・問題意識・真理の探求・創造性」とある。(としちる「入門学術メディア Share Study, 「学問って何?」という疑問にズバリ回答！高校と大学の決定的な学びの違い」, https://share-study.net/what_is_academic_study/, 2018/4/13 アクセス) つまり、個人的な興味関心では、調査によって自身の好奇心を埋めるだけに過ぎず、その先の発展となる「創造」に結びつかないのである。真理の追究から創造性を生み出すこそが「学問的価値」であり、積み重ねが「知恵の体系」なのである。

今回、第一回目の総合科学入門講座を受けて大学生の学びについての学習をしました。論理的思考力や多面的理解そして興味から知識へ知識から知恵への変換など大学で学ぶ上で大事なことがいくつもありました。その中でも特に僕は物事の多面的理解について意見を述べたいと思います。多面的理解というのは正しく考える力であり、客観的な根拠や理由を示して主張し、調べ知りそして書き、書きなおすことの繰り返しだと授業で習ったのですが、自分は後半部分の調べて書きなおすことはとても大事だと**思っています**。なぜかというと小、中、高と学校に通ってどの先生からも反復の大切さを口酸っぱく言われていて無意味に思えることでも必ず何かを考えると時の手助けになると教わってきたからです。

ただ前半部分の客観的な根拠を用いて主張することが正しく考えることであるというのが自分にはいまいまいち分かっていないのが正直なところです。そこで答えの無い問いに関しては自分の主観的な考えを通し根拠を導く必要性があるのではないかと質問したいです。なぜなら答えの無い問いに**主観的な考えを通しての根拠**がなければそれこそ説得力に欠ける答えになってしまうのではないかと**思うから**です。哲学者も結局は自分の意見を述べているので客観的な根拠だけを用いて主張しているわけではないと**考えられます**。こういう

コメント [y82]: 具体的にどのようなことが分かったのか、にもかかわらずどのような点がどうして分からなかったのかを具体的に特定してください。ネットで別の人が言っていることを調べるよりは、私が言ったことを読み直して復習して理解するようにしましょう。

コメント [y83]: 「主観的な考えを通しての根拠」とはどういうことなのか、もう少し説明してください。

コメント [y84]: そんなことはありません。哲学は客観的・論理的な議論の積み重ねです。

ことから正しく考えることは必ずしも客観的な根拠だけでは考えられないものであると**思います**。まだまだ授業は始まったばかりなので自分の問いをこれからの授業の中で解決出来るようにしていきたいと**思います**。

今日の講義では、論理的思考力・物事の多面的理解という総合科学的思考を養成することを目的とし、興味関心と学びの関係や大学での興味をきっかけにしての学びのやり方について学んだ。その中でも私が一番重要だと考えた内容は、学問的に価値がある興味関心を調査することで自分の知識が体系化し自分自身の変化に繋がるということである。このように考えた理由は、自分の知識が体系化することで、自分の中にある知識の欠けているところを補うことができるからである。そのために大学での学びで知識の体系を増やし、「知識のあるもの」になりたいと、今回の講義を通して考えることができた。

今回の授業では、大学での学びは高校までの調べ学習とは異なり、自分の興味を調べ、知識を得て、そこでとどまらずにそれに関連した新しい興味や疑問を調べるということの繰り返しによって知識を体系化し、知恵として身につけていくことを学びました。また、意見を主張するときは客観的な根拠や理由を示すということも学びました。私は、説得力のある主張をするためにはメリットだけではなくデメリットもふまえて伝えるということに同意見です。実際、客が購入を悩んでいる際に、どちらの面も伝えることで企業への信頼が得られます(経営ナビ参照)。だから私は、意見を主張するときにはメリットもデメリットも紹介し、デメリットの原因や改善点、メリットに関係のあるデメリットを述べることで説得力が増すと考えました。

[要点]総合科学的思考すなわち正しく考える力を持つだけでなく、正しく理解することが大切。また興味関心と学びについて、自分自身の変化に繋がらせる為にはより「知ること」が重要だ。もっと知りたい知ろうと思うことで自分で調べ知識が増えていく。知識がつくと興味の持ち所が変わり、それが体系化し"知恵"となる。また自分の持つ知識が体系化することによって興味関心や問いの価値が分かるようになってくる。そして知識の体系は大きければ大きいほど「知恵ある者」になることができる。

[意見]個人的な興味関心に終始することなく自分自身でより具体的に、より深く調査することで説得力のある解答をつくることができると**考える**。そのような解答ができるように

なる為にもこの総合科学入門の講義を聞いて自分の知識の体系を可能な限り大きなものにしたと考える。

大学での学びとは、自身の興味・関心に即したものであり、正解のない問題に自分で解答を与える。しかし個人的な興味に終始し、勝手に解答をでっちあげてはいけない。論理的思考力・多面的理解を用いて、客観的な根拠や理由を示して主張する。その際、ネットや図書館のデータや文献等で調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しが重要となる。

また、「知識知恵あるもの」になるためには、自身の持つ「知識の体系」によって興味・関心や問いの「価値」を理解しなければならない。知識は、「興味→調査→知識がつくと興味を持ちどころが変化し、さらに調査をする」ということの中で体系化されるが、それによって「知恵」が生まれ、自身の変化につながる。断片的な知識ではなく、お互いに支えあう体系となる知識を身につけられるようにしなければならない。

私は、今回の講座での「興味を持ち、調査を重ね、知識を取り入れる。そして得た知識からより大きな興味を得ることができ、深め、知恵のあるものとなれる」という考え方に感動した。したがって、もっとより知恵のあるものになるためには、ただの調査ではなく、「経験」の意味を強めた調査が必要であると考える。古代ローマの劇作家プラウトゥスは「知識を得ようと思ったら、知識を使わなくてはならない。知恵を得ようと思ったら、経験を経なければならない。」と述べている。また、レオナルドダヴィンチは、「知恵は経験の娘である。」と述べている。このように知恵を得るには、「経験」の意味を強めた調査が必要不可欠であると考える。

今回の総合科学入門講座では、体系的な知識を持つような学びをすることの重要性を学んだ。体系的な知識を持つことにより、新しい自分の興味関心を発見し、学びを深められる。そのためには、客観的な視点を持つことが必須である。大学での学びは個人的な興味、関心に終始するだけでなく、学問的に価値のある興味関心をもつことが前提であるため、今までのように自分の主観だけでの研究はいけない。

体系的な知識を持つことは広い視野を持つこと、新しい発見、考えに出会う機会が多くなるということだと私は考える。広い知識を持つからこそ気づくことがある。知っていることが多いほど、発展したことについて、思考し、議論することができる。そうして新しいことに会うにつれて、今までよりも豊かな自分に出会える。逆に、何も知らなければ狭い視野しか持つことができず、自分が新しいこと、もの、知識と出会う機会はかなり少なくなってしまうだろう。

大学での学習において重要となってくるのは、論理的思考力の養成と物事の多面的理解である。論理的思考力・多面的理解とは正しく考える力であり、文献などを用いて客観的な根拠や理由を示して主張することや調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことだ。自分のもつ思いや信念では決してない。大学で学びを深める上で、してはならないことがある。まず、正解のない問題に自分で解答を与えることだ。「正解」はない場合でも、「誤答」はあり、勝手に解答をでっちあげてはならない。次に、個人的な興味・関心に終始してしまうことだ。私たちは学問的に価値のある興味・関心に沿って知識を得る必要がある。興味から知識を得て、その知識が体系化すると「知恵」になると考えられるからだ。つまり、知ることが自分自身の変化へと繋がる。そして、自身の持つ知識が体系化することによって興味・関心や問いの価値が分かるようになるのだ。また、大学では断片的な知識を多数持つ雑学王ではなく、自分の中に大きな知識の体系をつくり上げた「知恵ある者」へとならなければならない。

高校までの興味のあることを調べてまとめるだけでは知識を体系化することはできず、断片的なものとなってしまふ。「知恵ある者」を目指す身として、客観的に様々な視点から物事を考える力を培っていかなければならない。

「大学で学ぶ」とは、論理的思考力と物事の多面的理解、すなわち「正しく考える力」を身につけるということである。「正しく考える」とは、客観的な根拠や理由を示して主張し、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことであり、誰が見ても納得する答えを与えなければならない。また、大学では個人的な興味・関心に終始するのではなく、学問的価値のあるものを調査し、知識を習得した上でさらに調査し体系化させ「知恵」にする。

これに対して、私は「知恵」を得るためには、知識を体系化するとともに意思をもつことが必要であると考え。なぜならば、「知恵」とは「物事の筋道を立て、計画し、正しく処理していく能力(引用:デジタル大辞泉)」であり、知識を体系化するだけではどのように処理すればよいか分からないからだ。この問題を解決するために、「何をするために、どうするのか」という明確な意思をもつべきである。

・正しく考えるとは、調べ、知り、書き、書き直すことの繰り返しであり、客観的根拠が重要である。

- ・興味→調査→知識→新たな興味→調査→知識の体系化→知恵→自身の変化
- ・知識の体系は、欠けた部分を必然的に問う。

授業コメントに関する質問なのですが、私の考えでは、**1 客観的な証拠→2 意見・質問の根拠→3 意見・質問**となります。例えば、日々の授業で知識体系内部の欠けに注意したいという意見をもったとき、興味をきっかけにしての学びでは自身を変化させることができるという**1 証拠**と、自信を変化させたいという**2 根拠**が先立っているからです。どうすれば、**1 証拠**を**3 意見・質問**のあとで調べることができるのかを疑問に思っています。それとも良い意見ならば、可能となるのでしょうか。申し訳ございません。宜しくお願い致します。

コメント [y85]: 内容として、理由や根拠がちゃんと書いてあれば、どのような順番で提示してもらってもかまいません。

論理的思考や多面的理解のためには、正しく考える力が必要である。正しく考えるということは、根拠や理由を明示し、主張することが必要である。また、調べる、知る、書く、書き直すということを繰り返さなければならない。

物事を学ぶにあたって、興味関心で終始してはならず、勝手な解答も認められない。そういったことのためにも、知識の体系化が必要となる。知識が体系化することで、知恵になる。知恵を得れば、物事の真偽がわかるようになり、判断、判別も可能となる。さらに、知ること自身が自身の変化にも繋がり、興味の持ち所が変わり、さらなる調査へと発展する。

また、大学における興味関心は学問的に意味がなければならぬが、知識が体系化されることにより、興味関心や問いの価値がわかるようになる。知識の体系の大きさが、どれほど知恵があるかということにも繋がっている。

今回、知識のみを身につけただけでは、それは意味をなさないことがわかった。知識を構築し、知恵とならなければ、物事の判別は難しいだろう。ばらばらの知識だけでは、それらの繋がりはわからず、その知識が一体何に役立つのかわからないままとなってしまうからだ。しかし、知識の体系化によって知恵となれば、それがどう活かされるのかわかるようになり、高度な判断力を身につけることができるようになるが、では、どうやって知識を体系化していけばよいのだろう。私は、自分が身につけた数々の知識において、共通点、相違点を見出すことが必要ではないかと**思う**。知識をただの知識として放っておいたままでは、自分の中でも整理がつきにくい。知識以外のことでも同じことが言えると**思う**。掃除や片付けと同じで、共通したものと違う系統のものを仕分けなければ始まらない。知識も共通点と相違点を見つけ、仕分けていけば、それらは構造を成し、体系化され、知恵へとなるのではないだろうか。これが私の考えである。

大学での学習は高校以前の興味→調査→報告と違い、その出発点は自分の知識から生まれる齟齬・欠けている部分から生じる。そこで生じた興味について学び、それが知識となり、それらが集まって体系化することで初めて意味のある学習になる。どれくらい大きな知識の体系を作ることができるかによって、どれくらい“知識のある人”かが決まる。単純に一問一答のように情報を頭に入れていくのではなく、それらの情報を関連付けて、一つの流れのようにして知識体系を作り上げていくことが肝要である。その際知識を作っていくのに論理性、きちんとした証拠、理由というのを忘れてはならない。意味のある情報が知識を形作る。

僕はまだまだ知識不足で、今回の講義について「なるほどそのとおりだ」と思うだけで、特に意見や質問といったものは思い浮かばない。だが抱負というか考えはある。僕は、家族の中ではそこそこに(日常生活に役に立たないような)知識はあったので雑学を何でも知っているねと言われていた。それらの情報は、学校で学んだことであったり、テレビやネット、図鑑、書籍、外で見聞きしたことの集合であった。多少それら学んだことを自分なりに考察、合体して、テレビのクイズ番組にしても何か社会問題に意見を持つにしても自分なりの“当たり”をつけて考えることはあったが、大学ではそれ以上のことを求められていくことになる。今自分の持っている知識に加えて、大学で様々なことを学び、それら一つ一つの知識を間を埋め、関連づけ、さらに新たな知識も取り入れ、大きな知識体系を作り上げていきたい。

今回の授業では、論理的思考力・多面的理解という正しく考える力や興味関心と学びの関係について学んだ。

「正しく考える」とは、「思い」や「感想」、頭の中にあるものを取り出してくるのではなく、客観的な根拠や理由を示して主張することであり、調べる・知る・書く・書き直すことの繰り返しが必要である。

また、大学で興味関心に即して学ぶ際は個人の興味に終始したり、勝手に解答をでっちあげてはいけない。興味は調査し、知識が付いてくると興味が変わることがあり、さらに調査すると知識が体系化し「知恵」になる。意味のある興味関心とは学問的に価値のあるものであり、自分の知識が体系化すると、興味関心や問いの価値がわかるようになる。

自分の「知識の体系」を可能な限り大きく育て、可能な限り「知恵ある者」になることが重要である。

私も正しく考えるためには客観的な根拠や理由を示して主張する必要があると考える。なぜなら、客観的な根拠を示さないと自分だけの意見を主張して、他人の意見を反映させていないことになり、正しく考えたとは言えず、周りの人に自分の意見を納得してもらうことができないと**考えるから**である。

コメント [y86]: 「～と考える。なぜなら、～と考えるからだ」という書き方では、あなたの「考え」の外に出ていません。

私自身は今まで主張する際に客観的な理由を示すことが出来ておらず、自分の意見を納得してもらうことが出来なかったことが多々あったので、今回の授業で学んだことを身に付けられるようにしたい。

今回の講義では大学でどのように学んでゆけばよいかを少し知ることができました。論理的思考力+多面的理解を元に興味を追求していき知識の体系化を図る事で正しい判断の出来る「知恵」者。こうなる為にも勉強に必死に励むことはもちろんですが、私は遊びも大切に感じます。講義の中で「自分の興味に閉じこもるな」というお話が出ていましたがその通りだと思っています。様々な知識を持つことで多角的なモノの考え方ができるという事は多いに素晴らしいことです。そして、遊びとは学校で学ぶこととは違った角度の考え方や刺激を与えてくれます。勉強だけしている知識人より勉強も遊びもする凡人の方が経験の差からよりよい意見を持つことが出来るでしょう。学業が疎かになる遊びは良いものではないですが、程度を守った遊びはむしろ自分の成長には不可欠なものだと今回の講義を聞いて改めて考えてみました。

私は総合科学入門講座で、総合科学的な思考とは物事を複数の視点から認識し、根拠や理由をもとに論理的に考えていくことだと学びました。私はこの講座の中で特に、「断片的な知識をいくら集めても『雑学』」というフレーズが気になりました。それはまさにインターネットと同じことだと感じました。ネット上には膨大な量の情報が存在していますが、その情報をただ並べるだけでは自分が何を言いたいのが伝わりません。そのため私も集めた情報を関連づけ、自分の意見を明確に伝えられることが大切だとかんがえます。

総合科学的に考えるとは論理的・多面的に考え、理解することである。それはすなわち正しく考えるということであり、そのためには、客観的な根拠や理由を示さなければならない。そのため、文献やデータなどを参照する必要があり、個人的な感情や自分の捏造したものは主張として相応しくない。調べ、知り、書き、書き直しの繰り返しが重要。

複数人がある問題に対してある解答を出しても、それが皆同じ価値ではない。

興味→調査→知識→自分の中の興味が変化→さらなる調査→知識が体系化→「知恵」の流れにより、物事の真偽を見極める能力をつける。

知識が積み重なることによって大きな知識の体系となり、「知恵ある者」となる。

キーワードは客観的・論理的・知識の体系化であると考えて。自分自身から一步引いて、自分を俯瞰的に見つめるべきだ。自分が何に興味をもっているのか。それは学問的価値があるのか。これらを明らかにしなければならない。そうしなければ自分の興味あることだ

コメント [y87]: もちろん遊びも大切ですが、大学は勉強するところなので、遊びの方はご自身で行ってください。

けに留まり、多面的理解が出来ておらず、知識の体系が作られないからである。

今回の授業で、論理的思考力や多面的理解を目標に調べ、知り、書き、書き直す繰り返しをすることを学んだ。

自分の興味関心のもつ内容から始まり終わらないことを知った。

今まで、小学校から高校の間で自分の興味を持つものをより深く調べることが当たり前だと思っていた。

しかし、この授業を通して、興味、調査、知識の力がつく、そして興味の持ちどころが変わることを聞き、自分自身興味の持ちどころがどのように変わるのか知ってみたいと思う。

この授業の概要は、大学でどのように学んでいくかということです。具体的には、客観的な根拠や理由を示して主張することに必要な「考える力」を養うことです。本講座では、考える力を養うためには、調べ、書き、書き直すことの繰り返しをしなければならないとも学びました。

また、大学では自らの興味に沿って学習を深めることが一番肝心であると学びました。しかし、個人的な興味で進めてはいけずに、学問的な価値、すなわち体系的に学ばなければならないということを学習しました。

私はこの講座を通して、体系的な知識を入れる為の土台の構築には、書籍を活用することが良いと感じました。何故ならば、インターネットの情報は、知識の断片であることが多いのに対し、書籍の助ウツホウは体系邸にまとめられることが多いからです。しかし、インターネットの情報もうまく活用するべきだと思います。確かに、インターネットの情報は虚偽の情報も多く、知識も断片的なものが多いですが、基本的な知識が身につくおれば、持っている知識をピンポイントで深めることができます。だから、私は今後の学習では、書籍を読むことで、知識の骨格を身につけ、興味のある部分を深めていく為の一つとしてインターネットを活用していくべきだと考えます。

授業内容の要点

根拠と理由をはっきりと示し、物事を様々な角度で思考する力を養う。

そのためには、個人的な興味関心だけに縛ることをせず、答えを自分自身で決めつけな

いことが重要になってくる。

そして学問的に価値のある興味関心をきっかけにして知識から知恵へと展開させ、知識の体系を広げていくことが大切である。

この授業をきいてやはり、物事の多面的理解は重要であると**思った**。

なぜなら、私自身、一方的な角度からでしか見ておらず、せまい視野で物事を考えていて、結局浅い答えしか見つからなかったという経験をしたことがあり、広い視野で様々な角度から物事を判断することは一つのことを違う観点で考えていくことができるので前者よりもはるかに深い答えに辿り着くことができると**思う**からだ。

大学では、学問的に価値のある問いに対して調査し、体系的な知識を獲得することが求められる。このとき、興味関心はひとりよがりであってはならず、自身の見解のみで答えを出してはならない。客観的な根拠、理由に基づいて自身の意見を構築していくことが重要である。そして、論理的思考能力を養成し、物事を多面的に理解する力をつけることが、総合科学入門講座における第一の目標である。

学問的に価値のある興味関心について調べねばならないとは言いが、その**興味関心が学問的に価値があるかどうか**は**どう判断されるべきか**。その結果で価値があったかどうか**が判断されるなら**、研究を開始する以前からその興味関心が無価値であると断じられないのではないか。

私としては、研究に対しての予算や時間は無限ではないため、個人的でない研究では学問的に価値のある研究をするべきだと考える。しかし一方で、他者(出資者や研究の協力者など)に一切影響を及ぼさなければ、本当に自分一人の満足のために研究することは許されてもいいのではないかと考える。

まとめ:論理的思考力の養成、物事の多面的理解(=正しく考える力)

根拠や理由を明確に示したり、調べ、知り、書くことの反復によって得られる。

学問的に価値のある興味関心について考える。

知識を得ることによって自分自身の変化につながるので「価値」がわかるようになる。

意見:学問的に価値のある興味関心について考えるべきだとあったが、そもそも大学は自分が学びたいと思うことがあって来るところなので、それに価値があろうがなかろうが自分の興味があるものなら良いと**思った**。

コメント [y88]: 知識体系を身につけていけば分かるようになります。

大学入門講座を通して、学問的に価値のある興味関心を、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返し、客観的な根拠のある理論的な主張をできるようになる。さらに、大学在学中に「知識の体系」を大きく育てるために、体系的な練習をする。

学者は、学問的に意味のある興味関心の中から選んで研究している、とあったが、学問的に意味のない研究とは、具体的にどのようなものなのか疑問を抱いた。

疑問の理由として、イグノーベル賞では一見意味のないような面白い研究にも賞が贈られるからだ。

自分なりの解答は、講義であったように、知識の体系が行う、欠けている部分への問い・体系内部の齟齬を解消するための問いに、学問的に意味のないものは、ないのではないかと考えた。体系化した知識はすでに興味→調査→知識を繰り返しているので、学問的に意味のない問いには、たどり着かないはずだと考えたからである。

今回の講義での重要な点は、「正しく考える」ことの意味だと思う。端的に言うと、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返して自分の意見を作ることである。それから得た全ての知識がつながり体系化され、価値あるものになり、多面的な判断力や理解力を含めた知恵になるのである。私はこの考え方に賛成である。なぜならば、ある事柄について断片的な知識のみで考えたとしても、一方面からの見方しかできないため、固定的な考え方になってしまうからである。物事を総合的に捉え、理解するためには、あらゆる面から見た多くの知識が必要になってくる。そしてそれらを身につけるためには、自分の興味のある分野の知識だけでなく、様々な分野の問題に積極的に取り組んでいくことが重要なのである。

総合科学入門講座によると、大学では、総合科学的思考を身に付ける必要があるという。総合科学的思考とは、論理的思考力・多面的理解により、正しく考える力のことである。学者は常に、学問的に価値のあることの中から、自分が興味関心のあるものを課題として選択し、研究している。研究において、調べ、知り、書き、書き直すことを何度も繰り返すことが重要だという。そして導かれた解答を主張するには、文献やデータなどの客観的な根拠や理由を示す必要がある。そうすることで知識は増えていき、さらにその知識は体系化される。私は、この過程を繰り返すことで、知識の体系は育ち、より大きな知識の体系を持つ者が「知恵ある者」となりえる、というのに非常に納得した。私達から見て、「知恵ある者」であるように見える人々の代表はやはり学者である。だから、学者の研究の仕方を学び、それに習うことで、より「知恵ある者」に近づけるのだ。

コメント [y89]: 疑問、疑問の理由、自分なりの解答が、それぞれかみ合っておらず、どういことを主張したいのか理解できませんでした。「学問的に意味のない研究は存在しない」ということですか？

コメント [y90]: 一口に学者にも色々いますから、よく注意して見てみましょう。

今回の授業は、総合科学部で学ぶ目的について聞きました。

それは、論理的思考力の養成と物事の多面的理解ができるようになることです。

その2つを身につけるためには、知識を増やし、学問に対する自分の興味・関心を広げ、そうして生まれた問いに対する解答を、データや文献などの客観的資料を調べ、用いて書き、その文を書き直すことの繰り返しが必要です。

その「知識」とは、**具体的にどこから**身につければよいのでしょうか。

断片的な知識をいくら集めても雑学と言っていますが、**総合科学部**では色々なことが学べるので(政治や心理学など)、それが利点ではありますが、逆に言うと少しずつつかじった「雑学」になってしまうのではないのでしょうか。

私は、それぞれ一見別物に見える学問でも、共通点を見つけるとい**姿勢が大事だと****思****います**。そうすることで知識と知識がつながれば、断片的な知識から体系的な知識に昇華することができる**と思います**。それが知識体系を広げることにつながるのです。

コメント [y91]:「基本は文献から。でも最初はネットでもいい」と言ったはずですが。

コメント [y92]:大学の授業だけに頼るのではなく、授業は単なるきっかけとして、自分でどんどん本を読んで勉強してください。

今回の総合科学入門講座は講座の概要説明と総合科学部での学びについての講義だった。端的に言うと、学問的に価値がある興味を持ち、調査を繰り返してその興味に関する知識を習得、体系化させて大きくしていくことで、知恵のある者になるべきだ。という話だった。このことに対して私は、知恵ある者は関係のないような事柄同士であっても、知識を体系化させていく中で関連づけることができると考える。その根拠として例を挙げるなら人類学者、霊長類学者でありゴリラ研究の第一人者である京都大学総長の山極壽一氏の著書に、ゴリラやサルについての知識を基にして人間の社会や生活について考察するという内容のものが多くあるということである。一見関係がないような人間の社会や生活と霊長類を関連させられるのは、それぞれの知識が体系化されているだけでなく、体系化された知識同士が繋がりを持っているからだと考えられる。

今回の授業は大学で学問を学ぶ上で大切なことや心構えを学ぶ内容だった。大学で学問を学ぶということは関心のある分野を専攻できるが、その分野は個人的な関心のあるもので完結するのではなく、学問的に価値のあるものでなければいけないということ。そして、学ぶ上では断片的な知識をどれだけ集めても雑学にしかならず、自らの頭の中で知識の体系を創り上げることで「知恵のある者」になれるということ。大学側は、学生に在学中「知恵になる者」になるために自身の体系を可能な限り育てあげてほしいと望んでいるということ。

知識を体系化するというのは、初めて教わり授業中や直後はあまり理解できなかったが、

ネットなどで調べると様々な切り口から考えたり深く考あたりするために必要となることだと分かった。だから、これから学問を学ぶ中で知識の体系を少しずつでも育てていきたい。

コメント [y93]: 具体的にどんなことを調べましたか。また、どのようなことだと理解しましたか。

総科入門講座では論理的思考能力と物事の多面的理解を学んでいく。そこから客観的な証拠や理由を示して主張することや、調べ、知り、書き、書き直すの繰り返しなどの正しく考える力を身につけることが大切である。正解のない問題へ主観的に考えるのではなく客観的な証拠や回答が必要になる。また、正解はないとはいっても明らかに違う誤答はあるため、適当に考えるのではなくきちんと考えて、説得力のある回答を作る必要がある。ある事に興味を持ったら調査し、それによって興味に変化していき、また調査し、知識が体系化し、知恵へと繋がっていく。よって興味をきっかけにしての学びが大切になる。知ることには自分自身の変化へと繋がっていくのだ。大学で知識の体型を可能な限り大きく育て、そこから可能な限り知識ある者へなる為に授業毎に対するコメントなどの体系的な練習をきちんとやっていく必要がある。

私はこの総科入門講座の要点について、本当にその通りだと考える。高校までは必ず正解のある問題しか向き合っただけで、論理的に多面的に考える力を養うべきだと思う。この力は社会に出てからも重要な力だと思う。その為に大学生活で出会った課題に真摯に向き合い多面的に考え、考えを深めることを大切にしたい。そして少しでも興味を持ったものを追い求める気持ちを大切にしたい。興味から知恵は付いていくため、興味あるものを諦めずにきちんと向き合っていきたい。

正しく考えるとは文献やデータなどの客観的証拠や理由を示して主張し、書き直すことを繰り返すことである。自分の知識をまとめる力をつけることで学問的に価値のある興味関心や問いの「価値」が分かるようになる。大学は、その力をつけ、「知恵ある者」へと成長する場である。私はこの講義をつうじて、大学以前における学習から興味をきっかけにして学びを展開していくべきだと思った。何故ならば、断片的な知識をいくら集めても「雑学」にすぎないからである。

1,大学での学びは、単に自分の興味に沿って学ぶだけでなく、学問的という枠の中で興味を追求し変化させていく。

2,重要なのは、大学の学びは自由だが単純ではないということだ。

3,何故なら、高校ではあらかじめ決められた広い範囲で好きなものを選び、自分が感じたことを発表するだけで良かったが、大学では「学問的に価値のある」というより狭い範囲の中で頭を使って興味のあるものを探し出す必要があり、さらにあらゆる角度から物事を見て事実を導き出し、誰が聞いても納得するような根拠を示さないといけないからだ。

私は総合科学部での学びとはどのように進めていくべきか見当がついていなかったのだが、第一回の講義を経て、まずは自分の知識を体系化させていくために文献を調査し、書き表し、そしてさらに調査することを繰り返していくことが必要だと学んだ。また、これについて、講義中に述べられていたように私たちには物事の多面的理解が求められており、それを実現するには学問的価値のない自分の興味だけを優先させることを防ぐという点においても調査とデータに基づき、客観的に考えの推敲を積み重ねていくことが重要であることを理解した。確かに自分の関心だけをもとに主観的に物事を考察すると知らず知らずのうちに偏った見方をしたり、情報を吟味せず鵜呑みにしたりする恐れもあり、論理的思考を構築していく上で間違いを生みかねない。したがって物事を多方向から調査し眺めることを念頭に置き、知識を深めていくことで自分の述べることでより論理的になり、そしてようやく自分の知識の体系を構築していくことが可能になることを知った。

今回の授業では、大学では、断片的な知識をもつだけの雑学ではなく、知恵ある者になるよう練習していくことが重要であると学んだ。学問的に価値のある興味関心の調査を繰り返し、知識の体系を作り上げていくことで、知恵ある者になっていくのである。

しかし、テレビに出演している雑学王たちは、知識を体系できていないのだろうかという疑問が生じた。私はそういった「テレビに出ている雑学王」は、知識を体系できていないと考える。なぜなら、クイズ番組では、問題が出題され、考える時間を少ししか与えられず、正解を教えられるが、すぐに次の問題が出題されるため、その場で、分からなかった問題について自分で調べることができないからである。そして、あとで、分からなかった問題について、自分で調べない限り、断片的な知識しかもっていないため、大きな知識の体系を作ることができない。

したがって、テレビに出演している雑学王は、知恵ある者ではない。

コメント [y94]: 「雑学王」といっても、いろいろな人がいるでしょうから、その人が知恵があるのか、本当に単なる「雑学王」なのかは、その人を見ないと分かりません。あと、なぜテレビの雑学王について論じる必要があるのか、わかりませんでした。

①授業内容の要点

この授業の目的

- ・正しく考える力を身に着けること。
- ・学生を知恵者(大きな体系知識を持ち活用できる者)として成長させること。

○上記二つの目的達成のために必要な練習を,学生に課す場がこの授業

②大きな体系知識とは,の説明の際に提示されたイメージ画像にとっても共感できた。

今後も,大きな知識の体系の説明にはあの画像を使えばいいと考える。

③私がイメージしていた大きな体系知識とは,知識一つ一つが,関連した知識に影響を及ぼすもの(ある知識に別の視点をもたらしたり,それ自体を批判したり逆に,補強したりすること。)だったので,この授業でそれを説明するために用いたあのイメージ画像は,まさに私のイメージの具現化だった。つまり,私が考えるに,あれは大きな体系知識のイメージを容易にする効果的なものだったと考えるので,よって上記のように意見した。

客観的な根拠や理由を示して主張し、調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことで正しく考える力を身につける。大学では、個人的な興味に終始せず、正解のない問題に、自分で解答を与える。興味から知識へ、知識から知恵へと発展させる。自分の持つ知識が体系化することで、興味、関心や問の「価値が」わかるようになる。私はこれらについて、全てのことにおいて、まずは、目の前にあるどんなことに対しても、興味心 (→好奇心?)を持つことが大事だと考える。興味心がないと、何に対しても挑戦しようと思えないからだ。興味心や疑問を持ち続けることで、知識から知恵へと変わるはずだ。

今回の要点

- 1.総合科学入門講座では,論理的思考力と物事を多面的に理解する力を養成する。
- 2.自分の身につけた体系的な知識(=知恵)の中の矛盾や齟齬からくる興味関心に従って学ぶ(研究する)。
- 3.数人の教員が持ち回りで教える。
- 4.毎回の出席カードへの記入と,授業後のコメントの提出をする。また,事前に資料を用意して持参する。

意見・質問

物事を多面的に理解することはとても重要だろう。先入観に囚われていたばかりに失敗してしまった,という話も珍しくない。物事の複数の面から総合的に判断する力は,日常の1場面からビジネスシーンまで幅広く役立つ。営業ならば,商品の良さを様々な面から説明できるし,消費者の視点でも安さの裏にある危険性に気が付くことができる。

今回の授業の要点は、何の情報もないまま頭の中で考え意見を作ることはできない、まず情報を収集し、知識を蓄えたいうえで実際に意見を書いてみて、不十分なところはまた調べて書き直していく作業を繰り返していくことによって、知識が体系化される。そして知恵あるものは、その体系化された知識が大きいというものだった。

先生の言葉の中に「意見や考えは頭の中にあるのではない」というものがあった。

今回は根拠や理由に基づく客観的な意見と主観的な印象や感情である思い(『コピペと言われないレポートの書き方教室』による)について質問したい。

好みの話をするときである。単に「赤色が好き」という場合は根拠はなく主観的であるから思いであるが、例えば、「赤色は添削に使われると学習意欲を低下させるが、赤色を好む男性は男性ホルモンの数値が高いということがわかっている。男性ホルモンの分泌量の低下は気力の低下や集中力の低下につながる。赤色をうまく活用すれば改善される可能性があるため私は赤色が好きだ」という場合には意見になるのだろうか。(パピマミ『イギリスの研究で判明!?人を元気にする「赤色」の心理効果とは、ダニエル・ファレリー氏の研究結果、『カラーマーケティング論』による)

自分なりの意見としては、この例文ではほかの色と比較していないなど、まだまだ不十分であるため意見とはいえないかもしれないが、資料に基づく根拠があれば人の好みも意見になる場合があるのではないかと考える。

参考文献・ウェブサイト一覧

- ・山口裕之 『コピペと言われないレポートの書き方教室』 新曜書 2017 p. 64
- ・パピマミ 『イギリスの研究で判明!?人を元気にする「赤色」の心理効果とは MAKI <https://papimami.jp/58405/> 2018/4/15 アクセス
- ・ダニエル・ファレリー氏の研究結果 サンダーランド大学心理学者
- ・野村純一 『カラーマーケティング論』

論理的思考と多面的理解が組み合わさって正しく考える力に繋がっていく。その正しく考える力とは、主観的な意見に基づくものではない。文献やデータなどの客観的根拠を蓄積し、それを使って思考していく力のことである。

今回の授業で特に重要だった点は、「自分の興味」が学問的価値のあるもの、つまり、ある学問体系そのものに存在する矛盾や欠けを埋め・解消するための問いから生じてくるということだ。なぜなら学問体系の矛盾などは、授業で何度も繰り返し主張されていた「客観的根拠」に基づいて物事を考え・観察して、初めて見えてくるものだからだ。

コメント [y95]: この講義で言う「意見」とは、「正しいものとして主張するもの」です。もしも、「人間は赤が好きであるべきだ」とか、「大多数の人間は赤が好きだ」ということなら「意見」となりますが、「私は赤が好き」というのは意見ではありません。

総合科学入門講座では、論理的思考力の養成と物事の多面的理解を身に付ける。

この授業の目的でもある、論理的思考力の養成と物事の多面的理解とは、総合科学的思考のことであり、すなわち、正しく考える力のことである。正しく考えるとは、客観的な根拠や理由(文献やデータなど)を示して主張することであり、調べ・知り・書き・書き直すことの繰り返すことである。また、客観的意見でなく、主観的な意見は、権力が強い者が勝ってしまうためよくない。

次に、大学では自分の興味関心に即して学び、正解のない問題に、自分で解答を与えるが、個人的な興味関心に終始したり、勝手に答えをでっちあげたりしてはならない。正解がない場合でも、誤答は存在し、説得力のある解答とない解答がある。そして、興味→調査→報告のような高校までの調べ学習では、最初の「興味」が変わっていかないが、興味→調査→知識が身に付くと興味の持ち所が変化し、調査→知識が体系化→知恵へと変化する。ゆえに、知ることが、自分自身の変化につながるのだ。また、興味関心なら、なんでいいわけではなく、学問的に価値のある興味関心が意味のあるものである。また、知識の体系は、欠けている部分への問い・体系内部の咀嚼を解消するための問いを必然的に問い、自分の持つ知識が体系化することで、興味関心や問いへの価値が分かるようになる。学者は、学問的に意味のある興味関心の中から選んで研究している。また、知識はそれ自身として、お互いに支えあう体系となっており、自分の中に、どれくらい大きい知識の体系を作り上げることができるかによって、どれくらい「知恵ある者」かが決まっている。断片的な知識をいくら集めても「雑学」であり、大学では、自分の知識体系を可能な限り大きく育て、可能な限り「知恵ある者」になってほしいと考える。そのためには、体系的な練習が必要である。

今回の授業は、価値ある興味関心から調査を繰り返して、知識を体系化させることが論理的思考力や多面的に理解する力を養う上で重要であるというものであった。この手順に沿うためにも、色々な方向にアンテナを張ることが大切だと私は考える。様々な事柄に興味を持つことによって、自分の持つ知識の量を増やすことができるし、そうすることで知識を得ないと、自分の持つ知識同士を結びつけることもままならないからだ。

大学では自分の興味関心に即して学んでゆく。興味関心は個人的なものに終始してはな

らず学問的に価値がなくてはならない。

興味を出発点とし調査して知識を習得するだけに終わってしまうようでは高校生のままである。断片的な知識はいくら集めても「雑学」であるので「知恵ある者」になるためには、興味→調査→知識→興味→.....のサイクルで知識が体系化し「知恵」になることが重要だ。

また物事を学ぶ際に正解のない問題に自分で答えを与えていくには正しく考える力(論理的思考力・多面的理解)が必要である。

正しく考えるとは、思い、信念、感想、妄想などの主観的なものは排除して客観的な根拠や理由をもとに判断や主張をするということで、調べる、知る、書く、書き直すことの繰り返して鍛えられていく。

この講座では論理的思考力の養成を主としている。論理的思考力とは客観的な根拠や理由を文献などから発見し自分なりの答えを見つけ出すというものである。その際、興味あるもの一つだけ継続して探求するのではなく、初めに抱いた興味から新たな興味を發展させ学びを強固なものとするのが重要である。注意する点は主に2つある。1つは自分の関心に終始してはいけないこと。これは感情的であると言えうるからだ。感情的になり得た答えは誰もが納得するような解答にはなりえない。もう1つは、答えを勝手に作ったりしないこと。信憑性に欠ける解答も同様である。

次に興味関心について、この授業において興味関心とは、学問的に価値があるものを意味している。

この授業では論理的思考力の養成が主である。論理的な思考力は社会に出ていく我々にとって意味を成すのだろうか。学者だけが必要ではないのだろうか。この学びを通して何を得て何をすることができる能力の基礎を身に着けることができるのかしっかり考えていきたいと思う。

コメント [y96]: 人として市民として絶対に必要な力だと言いました。